

群馬県種実類調査遺跡集成

洞 口 正 史

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. はじめに | 4. 種実類調査集成：群埋文編補遺・追加 |
| 2. 種実調査の状況 | 5. 初歩的な分析と特徴的な出土事例 |
| 3. 種実類調査遺跡集成 | 6. 種実調査の課題 |

— 要 旨 —

先に、群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った種実調査遺跡を集成し、これに関するデータベースを公開した。本年度はこれを引き継ぐ作業として、群馬埋文調査以外の遺跡における種実調査事例を集成し、前集成と併せたデータベースを作成している。

本稿ではこのうち、出土遺跡の概観と掲載報告書、同定・分析関連記載を示す。また、前集成の補遺および前集成以後に報告された当事業団による種実調査事例を補足する。

本稿では群馬埋文以外の種実調査事例として103遺跡を集成した。また、前集成後に新たに報告された群馬埋文による調査事例5遺跡と、前集成での見落とし1遺跡を追加し、初歩的な分析を加えた。今後の課題として、小型種子を対象とした調査と水稻耕作に不適とされる群馬県北部の地域での種実類調査の必要性を示した。

個々の出土種実や産状の位置づけについてはさらに調査や検討を要するが、本集成により現時点での県内の出土種実についておおよその枠組みが把握できるものと思われる。今後は、前集成と併せ、種実出土遺構及び遺構ごとの出土種実についての情報を加えたデータベースとして公開を予定している。今後の意識的な調査や、資料見直しの契機として利用いただくとともに、欠落したデータや誤認、誤記等のご指摘をいただければ幸いである。

なお、本稿は群馬県埋蔵文化財調査事業団平成19年度自主研究活動事業報奨金交付を受けた「種実出土遺跡の研究」の成果の一部である。

キーワード

対象時代 旧石器時代～近代
対象地域 群馬県全域
研究対象 出土種実 データベース

1. はじめに

先に(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下群馬埋文とする)が刊行した報告書から種実類の調査事例を集成し¹⁾(以下前集成とする)、これに関するデータベースを作成した²⁾。本年度はこれを引き継ぐ作業として、群馬埋文調査以外の遺跡における種実調査事例を集成し、前集成と併せたデータベースを作成している。本稿では、群馬県内において行われた群馬埋文以外の機関等による種実調査事例を集成するとともに、前集成の補遺および前集成以後に報告された群馬埋文による種実調査事例を補足する。

対象は2007年11月までに群馬埋文図書室に納められた発掘調査報告書、展示会図録、県、市町村史誌、雑誌、群馬県遺跡大事典等の書籍及び博物館、資料館で展示されている実物資料等である。

本稿では群馬埋文以外の種実調査事例として103遺跡を集成した。遺跡の配列は市、郡別に、おおよそ調査年次または報告書刊行年次順とした。また、前集成後に新たに報告された群馬埋文の調査事例5遺跡、前集成に収めるべき事例の見落とし1遺跡を追加したが、これらの遺跡については末尾においた。

集成に用いた発掘調査報告書は約2,500冊であり、この中で103遺跡は4%をわずかに超える比率にとどまる。さらに、調査上の諸条件、環境が整わない中で発掘調査が行われて十分なデータが得られなかった例や、概要報告等に部分的な記載がなされるにとどまる例も多く、個々の出土種実や産状の位置づけについてはさらに調査や検討を要するが、本集成により現時点での県内の出土種実についておおよその枠組みが把握できるものと思われる。

今後は、前集成と併せたデータベースとして公開を予定している。今後の意識的な調査や、資料見直しの契機として利用いただくとともに、欠落したデータや誤認、誤記等の指摘をいただければ幸いである。

2. 種実調査の状況

今回の集成で扱った遺跡の調査年次をたどってみると、太田市天良七堂遺跡で炭化米が出土することがかなり古くから知られていたようである。新田郡の正倉として大きな注目を集めている遺跡であるが、現在に至る発掘調査はこの炭化米の存在を契機として始められたものであった。

出土した時期がはっきりしているものとしては1946年に防空壕掘削によって開口した高崎市観音塚古墳の石室で見つかったモモ核が古いようだ。次いで1954年には酒詰仲男が上野村檜原遺跡の「胡桃」を報告するが、これは具体的内容がわからない。

発掘調査報告書中に種実の記載が現れるのは1958年に調査され、1962年に報告された多野郡吉井町入野遺跡の例で、古墳時代後期の竪穴住居3棟からモモ核が出土している。1970年代には渋川市分郷八崎遺跡、吾妻郡草津町井堀遺跡、桐生市千瀬谷戸遺跡、太田市五反田遺跡で種実調査が行われている。大規模な開発に伴って、市町村単位でも行政発掘が急増する1980年代には29遺跡、1990年代には40遺跡、2000年以後は25遺跡で種実調査が行われた。現行市町村別に種実調査遺跡数を見ると、渋川市21、高崎市18、太田市12、安中市10など、やはり発掘調査が多く行われている市部が上位を占めて

いるが、調査遺跡の分布状況に、考古学上の意味を認めることはできないだろう。

調査上の課題については、基本的には前集成で述べたことの繰り返しにならざるを得ない。意識的な水洗選別などの欠如、同定報告と産状記載の不整合などの問題点があり、結局のところ調査者の目につきやすいモモ、クルミ、イネが報告地点数の圧倒的上位を占めることになってしまう。さらに、種実が多量に出土したり、特殊な出土状況を示したりする事例の報告が相対的に多くを占めるという状況が顕著に現れることになる。

一例を挙げると、今回の集成ではイネが「多数」「多量」と表現されているものを含め、かなりまとまった数が出土している例が多く認められる。この中には顕状態のイネを含む場合も少なくないものである。一方、前集成で示した群馬埋文調査事例においては、イネは炭化胚乳の少数出土が多くを占めていて、顕稲を含む多量出土は泉沢谷津遺跡、二之宮宮下東遺跡、小角田前遺跡、有馬条里遺跡などごく少数例にとどまっていた。これは単純に、群馬埋文のほうに水洗選別等による種実抽出例が多いために生じた現象であって、時代差や地域差といった考古学的な意味づけを与えられるべきものではない。もちろん、群馬埋文の調査事例が中立的なものだということではないし、個々の出土事例はそれぞれが固有の意味を持つものである。しかし、今回の集成のみを取り上げると、こうしたバイアスがより強くかかったデータとなっていることには注意が必要である。

3. 種実類調査遺跡集成：市町村編

(1) 前橋市：9遺跡

① 鶴谷遺跡群〔古墳時代〕

弥生時代中期から奈良時代、平安時代にかけての集落遺跡。96号住居は古墳時代前期の焼失住居で、壺2個体に多量の炭化米が入っていた。ジャポニカ型の玄米が主で、これに混じって若干のインディカ型玄米とヒエ種子があるとされる。

・近藤 晃 1982 「96号住居跡出土の炭化遺物」、『鶴谷遺跡群 II』、前橋市教委、1982、p.23-25

② 九料遺跡〔古墳時代〕

古墳時代後期を中心に、縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡。6世紀初頭の第56号住居址で、覆土の中位、下位からクルミの炭化核片が出土している。

・前橋市教委 1986 『小神明遺跡群IV 湯気遺跡、九料遺跡』

③ 寺田遺跡〔古墳時代〕

群馬埋文が調査を行った元総社寺田遺跡と連続する遺跡である。Hr-FA 降下以後の牛池川河道から、ヒョウタンの仲間、桃、胡桃が出土している。E-8、F-4グリッドからの出土に限られており、比較的狭い範囲にまとまっていたものらしい。

・前橋市埋蔵文化財発掘調査団、前橋市教委1987『寺田遺跡』

④ 柳久保遺跡〔古代〕

旧石器時代から古代にかけての複合遺跡。第16地点B区とされる、As-B 下30cmにある黒色泥炭層中から、土師器、須恵器片などとともにモモ核とオニグルミ核が比較的まとまって出土している。

・古環境研究所 1987 「柳久保遺跡出土の果核」、『柳久保遺跡群 IV』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、前橋市教委、p.62

⑤ 中鶴谷遺跡〔古代〕

縄文時代、古墳時代、古代の集落遺跡。奈良時代末とされる90号土坑の覆土上層から、多数の墨書土器を含む100点以上の土器片、木片とともに、ヒョウタン類が出土している。一括投棄されたものとされる。

・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988 『柳久保遺跡群V』

⑥ 熊野谷遺跡〔縄文時代〕

縄文時代、平安時代の集落遺跡。JD-6号土坑は長径70cm、短径49cmの円形土坑で縄文時代中期（加曾利E4式）のものである。多くの礫と炭化物が出土し、底面に炭化したトチの実があったとされる。

・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1989 『熊野谷遺跡』

⑦ 市之関前田遺跡〔古代〕

旧石器時代、縄文時代、中世城館、近世の屋敷跡などの複合遺跡であるが、平安時代の竪穴住居が1棟のみ見つかっている。この住居に隣接する土坑に「木櫃状炭化物」があり、この中から炭化した米とアワが左右に分かれて出土した。住居と土坑がともに「西」という墨がされた土器を出土しているところから、土坑が竪穴住居に伴う屋外貯蔵施設であったものとされる。

・宮城村教委 1993 『市之関前田遺跡III』

・細野高伯 1999 『市之関前田遺跡』『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社

・前橋市教委 2005 『市之関前田遺跡II』

⑧ 公田東遺跡〔中世〕

中世館址の堀内の土壌が水洗選別されている。サンショウ・モモ・スモモ・ウメ・オオムギ・ヒョウタン類などが出土している。同定は古環境研究所による。

・警察宿舍遺跡調査会 1998 『公田東遺跡発掘調査報告書』

⑨ 総社関泉明神北遺跡〔古墳時代〕

W-13号溝から「トチか」および「クルミ」の2点、W-14号溝から「トチの皮」とされる1点が出土している。ともにAs-C以後、Hr-FA以前のものらしいが、両溝ともに自然流路であろう。

・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『群馬県前橋市総社関泉明神北遺跡』

(2) 高崎市：18遺跡

① 八幡観音塚古墳〔古墳時代〕

復元全長105mの前方後円墳。全長15.3mの巨石を用いた両袖型横穴式石室を主体部とする。6世紀末の築造とされる。第二次世界大戦末期、防空壕掘削時に石室が開口し、多量の副葬品が見つかった。副葬品は一括して国の重要文化財に指定されている。

昭和21年に行われた聞き取り調査の記録では、玄室中部のやや右壁寄りの位置に「桃実」があったとされている。現在観音塚古墳考古資料館に保管、展示されているモモ核片がこれにあたるものだろう。

・吉川純子 1992 「観音塚古墳出土種子について」、『観音塚古墳調査報告書』、高崎市教委、p.159

② 天王前遺跡〔古代〕

As-B下の水田を中心とする遺跡。II区No.4断ち割りトレンチ30層からエゴノキ、ムクノキが出土した。

・記名なし 1982 「種子鑑定」、高崎市教委 『矢中遺跡群（II）天王前遺跡古代水田址と水利施設の発掘調査報告書』、p.42

③ 天神久保遺跡〔古代〕

As-B下の水田を中心とする遺跡。凹地01の北側の集石中からモモ核が出土したとされる。これもAs-B下に当たるものかと思われる。写真図版には1号住居出土土器として、4点のモモ核、核片が掲載されている。

・高崎市 1985 『宿大類遺跡群(5) 天神久保遺跡』

④ 下村北、砂内遺跡〔中世〕

館内最大の井戸である1号井戸の覆土から、「炭化した栗の実、桃の種子等が出土している。」とある。パリノ・サーヴェイによるとと思われる無記名の同定報告には、マツ、モモ、ヤブツバキ、エゴノキ属が記載されている。

・記名なし 1986 「材、種子同定」、高崎市教委 『矢中遺跡群IX』、下村北、砂内遺跡 昭和60年度矢中地区団体営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査概報 高崎市文化財調査報告書第77集、p.40

⑤ 村西、増殿遺跡〔中世〕

中世の村西城址第2郭中央やや東にある井戸の底面近くから、柄の付いた杓子状木製品、漆器碗とともにウメ、モモ各1点が出土している。

・パリノ・サーヴェイ 1986 「樹種、種子同定報告（抄）」、『矢島町村西、増殿遺跡』県営宿大類地区圃場整備事業に伴う緊急発掘調査概報、高崎市教委、p.39

⑥ 宿大類町村西遺跡〔中世〕

縄文時代から中世に至る複合遺跡。中世館内にある井戸（井戸No.1）から、炭化米、炭化豆が出土している。

・高崎市教委 1987 『宿大類遺跡群VIII 宿大類町村西遺跡』

⑦ 高崎城坪ノ榊形及び三ノ丸遺跡〔近世〕

近世高崎城の坪ノ榊形（二ノ丸）と三ノ丸を区切る堀の覆土から「梅の実」が出土している。掲載された写真にはオニグルミ核も見える。

・高崎市教委 1990 『高崎城遺跡 III、IV、V 坪ノ榊形遺跡、坪ノ榊形及び三ノ丸遺跡、東門及び三ノ丸遺跡』

⑧ 萩原団地遺跡〔古墳時代〕

浅間山、榛名山のテフラに覆われた水田を中心とする遺跡。Hr-FA下の旧地表面から種実類が出土している。出土状況写真によると、水路からはややはずれた位置で木器を含む材などとともに見つかったものらしい。桃、胡桃その他がある。「その他」の中にはオオムギがあるように見えるが確認していない。

・高崎市教委、萩原団地遺跡調査会 1993 『萩原団地遺跡』

⑨ 高崎城三ノ丸遺跡〔近世〕

近世の井戸185-SE21からウメ、185-SE4からクルミが出土している。また、1990年報告の「坪ノ榊形堀」と同じ「二ノ丸堀」の「北」からは「梅の種」「栗の皮」、「二ノ丸堀南」からは「桃の種」が出土している。

・高崎市教委 1994 『高崎城VIII IX、高崎城三ノ丸遺跡』

⑩ 浜川芦田貝戸遺跡〔古墳時代〕

As-C、Hr-FA、Hr-FP、As-Bに埋没した水田を中心とする遺跡。「5区大畦畔9東の耕作土下位」とされる資料はHr-FA下水田の耕作土下にあたる黒色粘質土の水洗選別結果と思われる。オモダカないしオモダカ科、ウキヤガラ、ホタルイ、コナギ、イボクサ、イバラモ属、ナデシコ科、シソ属、カヤツリグサ科、タデ属が出土していることになっているが、本文に記載されたカヤツリグサ科、タデ属は写真が無く、写

真掲載のシソ属、イバラモ属、ナデシコ科は本文に記載されていない。「6区大畦畔1」とされる資料もHr-FA下水田の大畦構成土中の炭化物層から水洗により抽出したもので、コムギとイネの炭化胚乳が出土している。同定は株式会社古環境研究所によるとあるが、同定報告は掲載されていない。

・高崎市教委 1994 『浜川芦田貝戸遺跡III』

⑪ 下中居条里遺跡 [古墳時代]

As-B下水田のほか、縄文時代、古墳時代、平安時代の遺構や、室町時代から戦国時代にかけての環濠などが見つかっている。第2トレンチ3号井戸は古墳時代前期の井戸で、覆土中位以下から腐植、炭化物、土器類、虫骸とともに種実が出土している。アサ・イネ・ウリ類・サンショウ・ヒョウタン類などがある。虫骸には食糞、食屍性昆虫が多い一方で双翅目昆虫の蛆が認められないところから、汚染の進んだ井戸であったものとされる。

・古環境研究所 1996 「第2トレンチ3号井戸内における出土種実」[同②]、『下中居条里遺跡』、高崎市教委、p.116-122

⑫ 高崎情報団地遺跡 [古墳時代]

縄文時代、弥生時代から中世に至る複合遺跡。3号掘立柱建物のピット2及びピット3から炭化した稲穀の塊が出土している。3号掘立柱建物は3間×1間の側柱建物で、桁行5.36m、梁行3.92mの規模である。出土遺物はないが、柱穴覆土の状態と遺構分布から古墳時代前期のものと判断されている。ピット2から17.4g、2,175個、ピット3は165g、20,625個が出土した。穎及び枝梗の残る物もあり、穂の状態であったものと想定されている。

・古環境研究所 1997 「高崎情報団地遺跡の種実同定」、『高崎情報団地遺跡発掘調査報告書』、高崎市遺跡調査会、p.440-443

⑬ 乗附五百山遺跡 [古墳時代]

2号住居跡は古墳時代後期の竪穴住居で、「カマドの右50cmほどの床面には30×25cmの平たい安山岩が1点検出され、その上から炭化材と炭化した桃核1点が出土した。」「桃核はこの他5点出土している。」とある。特に説明がないが、写真図版には101から108の番号がふられた種実らしきものが8点掲載されており、このうち6点がこれに当たるものかと思われる。

・高崎市教委 2000 『乗附五百山遺跡』

⑭ 高崎情報団地II遺跡 [旧石器時代]

As-YP下位の土壌を柱状サンプルで2サンプル、各200ccを採取し、0.25mmの篩で水洗選別している。マツ科、ハンノキ属、カヤツリグサ属、スゲ属、カヤツリグサ科が出土している。

・古環境研究所 2002 「高崎情報団地II遺跡における種実同定」、『高崎情報団地II遺跡 第1分冊 縄文時代編』高崎市教委、p.201-204

⑮ 日高遺跡 [弥生時代、古代]

弥生時代から古代に至る集落遺跡。群馬県教委調査の日高遺跡の隣接部分にあたるが、一連の遺跡である。12区SI50は弥生時代後期の焼失住居で、住居を4区分して水洗選別している。種実は北東四半に多い。ヤマモモ、オニグルミ、ブドウ属、イネ、オオムギ、コムギ、マメ科、ササゲ属、ノブドウ、イネか？が出土している。

SD200は平安時代10世紀の溝で「馬骨や桃核が出土しており、この地点で祭祀が行われた可能性がある。」とされる。他

に弥生時代後期の炭化種子もある。

・無記名 2004 「自然科学分析」、『史跡日高遺跡平成12～14年度内容確認調査(第7～9次調査)概報』、高崎市教委、p.85-87

⑯ 北谷遺跡 [古墳時代]

Hr-FA下の古墳時代首長居館。館を取り巻く溝の底部に当たる部分の土壌サンプル200ccを採取し0.25mmの篩で水洗選別したもの。ザクロソウが出土している。

・古環境研究所 2005 「北谷遺跡における種実同定」、『北谷遺跡』、群馬県教委、p.146-147

⑰ 倉賀野下天神VI、下樋越III遺跡 [中世]

本文中では倉賀野下天神IV遺跡(倉賀野駅北III遺跡)とされるSK111(火葬墓)からモモが出土している。ほぼ南北に長軸を持つ長方形の平面形で、長軸長1.32m、短軸長0.55m、深さ0.46mで、西側長辺の中央近くに焚き口がつく形態のものである。同定者を特定する記載は見あたらないが、自然科学分析をパリノ・サーヴェイ及び古環境研究所に委託している。

・無記名 2006 「自然科学分析結果(抜粋)」『倉賀野駅北I、II、III、IV、V、VI遺跡』倉賀野駅北区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 高崎市文化財調査報告書第202集、高崎市教委、p.12

⑱ 新保町遺跡

調査項目として種子同定が挙げられているが、結果の記載は掲載されていない。

・高崎市教委 2006 『新保町遺跡』新保、日高区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書高崎市文化財調査報告書第201集

(3) 桐生市：3遺跡

① 千網谷戸遺跡 [縄文時代]

縄文時代晩期の大型集落遺跡。1977年の調査で炭化した「オニグルミ、山グリ、ムクロジ、クヌギ」が出土した。佐鳥英雄氏の教示を受けたとされている。

2007年に開かれたみどり市岩宿博物館の「千網谷戸遺跡発掘60年」展では、炭化した「クリ」「カシ」「ナラ」「ムクロジ」が展示されている。ただし「カシ」が収納された容器にはクヌギとの注記があり、大きさや球形に近い形状から見ても、クヌギのようである。ナラはコナラであろうか。

・桐生市教委 1980 『群馬県桐生市千網谷戸遺跡調査報告』桐生市文化財報告第4集

・岩宿博物館 2007 『千網谷戸遺跡発掘60年』第44回企画展図録

② 三島台遺跡 [縄文時代]

縄文時代前、中期、奈良時代、平安時代の集落遺跡。F-31号土坑からクルミ、「1-Hグリッド内の褐色土の落ち込み」から栃の実が出土している。

・桐生市教委 1987 『昭和60、61年度発掘調査概要』桐生市文化財調査報告第9集

③ 金竜台遺跡 [縄文時代]

縄文時代早期から中世に至る複合遺跡。縄文時代の遺構は早期から中期が中心とされており、「炭化したヤマグリがびっしり詰まった状態の縄文時代の貯蔵穴もあった。」とある。

・伊藤晋祐 1999 「金竜台遺跡」『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社

(4) 伊勢崎市：4遺跡

① 下舐向井遺跡 [古墳時代、古代]

古墳時代後期と平安時代初めの集落遺跡。概報の写真図版に「25号住居跡内炭化した稲穂」「4号住居跡床面下掘込み坑

中炭化米出土状況」が掲載されている。25号住居は平安時代の住居で、まとまった量の穎稲が出土しているようだ。4号住居は古墳時代後期の住居で、これも多数の炭化米が出土しているようだが詳細はわからない。

なお、赤堀資料館には「向井遺跡」の1号土坑から出土した炭化米が土師器甕に入れられた状態で展示されている。展示解説によるとこの土坑は古墳時代中期のもので、底面から30kgにおよぶ炭化米が出土し、周辺にも同様な土坑が認められるとされる。

・赤堀村教委 1980 『下触向井遺跡発掘調査概報』

② 下淵名、高田遺跡〔中世〕

中世の5、11、18、24、31号井戸からモモ、23号井戸ではモモ、スモモ、メロン仲間、29号井戸ではスモモ、センダンが出土している。32号溝は中世後期とされる溝で、ここでもモモが出土している。21号溝は中世後期の溝で、一部近世以後の溝に切られている。モモ核93が出土しているが、うち16は近世の21b号のものとされる。他にスモモ、センダンが出土している。また、現代の13号溝からモモ、試掘調査時の7号トレンチからモモ、オニグルミが出土している。

・境町教委、群馬県企業局 2002 『下淵名、高田遺跡』

③ 三和工業団地II遺跡〔縄文時代〕

旧石器時代から古代に至る複合遺跡。群馬埋文調査「三和工業団地I遺跡」および伊勢崎市教委調査の三和工業団地III遺跡と連続する。縄文90号住居跡は径6.83mの円形住居で北縁に礫を伴う埋甕炉を持つ。炉内土壌からカナムグラが出土している。縄文時代中期（加曽利E3）。

・古環境研究所 2004 「三和工業団地II、III遺跡における種実同定」『三和工業団地II遺跡 本文編』、伊勢崎市教委、p.134-135

④ 三和工業団地III遺跡〔古墳時代〕

旧石器時代から古代に至る複合遺跡。群馬埋文調査「三和工業団地I遺跡」および伊勢崎市教委調査の三和工業団地II遺跡と連続する。古墳時代後期の11号住居跡は一辺5.3mの整った方形住居で、竈から右手の貯蔵穴にかけて遺物が集中し、特に貯蔵穴内に多くの土器がある。同定報告によるとNa27の土器中から炭化したイネが出土したとされている。Na27は平面図上に見あたらないが、遺物実測図では既にこの番号が当てられており、この土器であるとすれば、竈右手あるいは貯蔵穴内から出土したもののである。

・古環境研究所 2004 「三和工業団地II、III遺跡における種実同定」、『三和工業団地III遺跡 本文編』、群馬県企業局、伊勢崎市教委、p.134-135

(5) 太田市：12遺跡

① 五反田遺跡〔古墳時代か、古代〕

J-12区II号土坑は漏斗状の断面形を持つ古墳時代あるいは古代の土坑で、覆土中に「深鉢」の胴下半部があり、底部から完形の土師器甕を含む複数個体の土器と杉材を細く割った「ヒデ状割材」とともに、桃実、瓜種子、ツバキ科種子などが出土している。

・太田市教委 1978 『群馬県太田市五反田、諏訪下遺跡』

② 大塚・間之原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期の3号住居床面から、炭化したクルミの核片が多数出土している。柱穴と思われるピットの近くで、0.78㎡の範囲に広がる。掲載された写真によると、半割され、頂部を欠くものが多いように見える。

・太田市教委 1981 『大塚、間之原遺跡確認調査の概要第2次調査（白金、榎戸、大塚、高原地区）』

③ 舞台D遺跡〔古墳時代〕

古墳時代後期の第2号住居址に切られる1号土坑から、一部未熟果、穎などを含む炭化米3%が出土している。この土坑の西にあるやはり1号土坑とされる土坑には、ロームや焼土とともに総量約4%に及ぶ炭化米が投げ込まれ、廃棄されたものと考えられている。第2号住居の竈の袖部や、同じく古墳時代後期の5号、9号、17号住居の覆土からも炭化米が出土している。

同定は佐藤敏也氏によるもので、特に西の土坑出土の炭化米が、東の土坑や小角田前遺跡出土米粒とはやや異なる形状、サイズ構成であることが注意されている。

・太田市教委 1983 『舞台D遺跡確認調査の概要』

・佐藤敏也 1984 「舞台D遺跡第1号土坑出土炭化米について」、『市内遺跡発掘調査-舞台D遺跡-』、太田市教委、p.30-40、付1-15

④ 重殿遺跡〔古代〕

大間々扇状地の扇端部の微高地上にある。古墳時代前期を中心に、平安時代まで継続する集落遺跡。奈良時代あるいは平安時代のもものとみられるB-1号井戸の覆土からモモ核が出土している。

・新田町教委 1984 『重殿遺跡』

⑤ 上新田遺跡〔不明〕

帰属遺構等の記載はないが、炭化米出土状態の写真が掲載されている。

・東京電力株式会社 1988 『西田、谷津、中道、上新田、今井遺跡発掘調査報告書』

⑥ 高林梁場遺跡〔古墳時代、古代〕

古墳時代後期と平安時代の複合遺跡。古墳時代および平安時代の住居から、炭化したモモ核が出土している。カマド内およびその周辺からの出土であり、「住居址廃棄に伴うカマド祭祀に用いられたものと推察される。」とある。

・太田市教委 1994 『市内遺跡X 下鳥山中遺跡、田谷遺跡、高林梁場遺跡、長手谷遺跡群-山去須恵器窯跡-、西長岡横塚古墳群、金山城跡日ノ池』

⑦ 下田遺跡〔縄文時代〕

縄文時代と古墳時代の河道が見つかり、さまざまな有機質遺物が出土している。縄文時代中期の2号河道から、クルミ、トチノキの実が出土している。サルノコシカケ2点や網籠なども出土している。クルミには動物による食痕のあるものもあり、トチノキも種皮が付いた状態であって、人為の関わりを大きく見ることはできそうもない。

・新田町教委 1994 『下田遺跡』

⑧ 中屋敷・中村田遺跡〔古代、中世〕

奈良時代のII地区11号住居跡では竈底面直上の土壌2サンプル各200ccを0.25mmの篩で水洗選別している。イネ科A・イネ科B・カヤツリグサ属・ミズアオイ・タデ属・ハコベ属・ナス科・イヌコウジュ属が出土しているが、栽培種ないし積極的に人為が関わったと考えられるものはない。さらに茶褐色、黄褐色の色調を呈するものもあって炭化していない状態であったものと考えられる。

奈良時代末から平安時代のI地区4号溝からはオニグルミ、ウメ、モモ核、I地区6号溝からはモモ核が出土してい

る。

中世（14～16世紀）とされるV地区2号溝からはモモ核、V地区6号井戸ではヒョウタン果皮片が出土している。V地区P-18表採としてもヒョウタン果皮片があるが、6号井戸関係のものだろうか。モモ核の形態に古代と中世で差がある点が注意されている。また、時期不明のIII地区12号溝 溝ではオニグルミ核が出土している。

- ・古環境研究所 1997 「中屋敷、中村田遺跡出土種実」、『中屋敷、中村田遺跡 成果と課題、写真図版編』、新田町教委、p.987-991

⑨ 唐桶田遺跡〔古墳時代〕

古墳時代前期、中期の集落遺跡。古墳時代前期の8号住居址の写真図版にモモ核が掲載されている。また、3号溝のHr-FA下の埋没土からモモ、クルミ、クリが出土している。

- ・太田市教委 1999 「唐桶田遺跡発掘調査報告書」

⑩ 天良七堂遺跡〔古代〕

新田郡の正倉と想定される遺跡で、古くから炭化米の出土が知られている遺跡である。発掘調査においても、1-1礎石建物、1-2礎石建物、6-1礎石建物、北方建物などの周辺から多量の炭化米が出土している。

- ・新田町教委 1999 「天良七堂遺跡、笠松遺跡」

⑪ 梅の木遺跡〔時期不明〕

1号河道からオニグルミやモモが出土している。時期、産状等の記載はない。

- ・新田町教委 1999 「松ノ木、梅ノ木、振矢遺跡 平成2年度」

⑫ 境ヶ谷戸遺跡〔古代〕

唐三彩を出土するなど、官衙的な色彩を帯びる遺跡である。6号掘立柱建物は2間×2間以上の総柱と思われる掘立柱建物で、柱穴内から炭化米と炭化材片が出土している。炭化米は水洗して抽出したもので塊状をなさない。

- ・新田町教委 1999 「新田町内遺跡I」、平成3年度から6年度の町内遺跡発掘調査にかかる報告書

(6) 沼田市：1遺跡

① 町田小沢II遺跡〔弥生時代〕

弥生時代、古墳時代、平安時代の集落遺跡。1号竪穴住居跡は多量の土器類を出土した弥生時代後期の竪穴住居で、焼失している。炉の西側に横転した状態で出土した樽式の甕から、約2.5合の収めのない状態の炭化米が出土した。各粒が分離している状況であったことから、この土器でコメを煮ていたものと考えられている。

- ・沼田市教委 1994 「町田小沢II遺跡」

(7) 館林市：1遺跡

① 八方（八形）遺跡〔古墳時代〕

古墳時代中期から後期を中心とした集落遺跡。古墳時代後期の土器片が相伴する「特殊遺構」から、「炭化米の純層」が見つかったとされる。特殊遺構は集落内の共同的な施設と考えられている。

- ・岡屋紀子 1999 「八方（八形）遺跡」、『群馬県遺跡大事典』、上毛新聞社

(8) 渋川市：21遺跡

① 分郷八崎遺跡〔弥生時代、古代〕

1970年の群馬用水建設に伴う発掘調査では、弥生時代の焼失住居から13個体の土器、鉄鏃、炭化した小豆？と中空の種子が出土して注目を集めた。

1982-83年に行われた関越自動車道建設に伴う調査では、縄

文時代前期の219号、378号土坑からミズキ、弥生時代後期の14号住居から種類不明の炭化種子が出土している。

なお、p.659 「付載3 炭化材及び炭化種子の同定」の冒頭文中には「（炭化種子が）出土するのは主として縄文時代の土坑からであるが、稀に縄文時代住居跡や弥生時代住居跡、平安時代住居跡からも出土している。多くは、外見の特徴からクルミまたはクリというふうに判断できる」「いくつか出土している炭化材、炭化種子の中から試料を選び、その同定を依頼した」とあって、同定報告に記載された以外にも種実出土遺構があることが示されている。

- ・相沢貞順、中村富夫 1973 「群馬県北橋村分郷八崎弥生住居跡」、『考古学雑誌』59-1

- ・パリノ・サーヴェイ 1986 「分郷八崎遺跡試料 材及び種子同定報告」、『分郷八崎遺跡』、関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書、北橋村教委、p.659-661

② 見立溜井遺跡〔縄文時代〕

旧石器時代、縄文時代草創期から中期、弥生時代末から古墳時代初頭を主体とした集落遺跡。縄文時代前期の土坑2基から炭化した堅果類が出土している。一基は本文記載では174号土坑、写真図版には74号土坑とあるもので、74号であるとすれば袋状土坑である。ここから「2,000点に上るカヤの実とくり、くるみ」が出土している。195号土坑も縄文時代前期の袋状土坑で「1,000点以上のくるみとくり」が出土している。渋川市赤城歴史資料館にこれらの種実が展示されている。

- ・赤城村教委 1985 「見立溜井遺跡、見立大久保遺跡」関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 KC.V

③ 中村遺跡〔古墳時代、中世、近世〕

天明泥流下の畑が良好な状態で見つかった遺跡として著名であるが、このほかにも縄文時代から近世まで、各時代の遺構が重層する。

天明泥流下では英の青さを残したダイズの畑や畦桑などが良好な状態で認められた。

Hr-FA 下面では、水田面で採取した50cm×50cm×10cmのブロックサンプルを1mmメッシュで水洗選別しており、オモダカ属・イネ・イネ科の一種・ウキヤガラ・ホタルイ属・カヤツリグサ科・イボクサ・コナラ属・カナムグラ・タデ属・サンショウ属・トウダイグサ類似種・ツリフネソウ属・ブドウ科・イヌコウジュ属の283点の種実が出土し、他に不明のもの99点があった。オモダカ属、カナムグラなどをのぞいて炭化している。また、調査時にも炭化したイネの穎が出土している。

中世の6号地下式土坑は東西3.8m、南北4.8mの楕円形土坑で、南に出入り口と考えられるテラスが付属し、床面から、炭化した稲穂が出土している。

- ・パリノ・サーヴェイ 1986 「種子分析」、『中村遺跡』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 KC-III、渋川市教委、p.567-568

- ・大塚昌彦 1985 「群馬県渋川市中村遺跡におけるミニ水田出土のイネモミ資料」、『考古学研究31-4』、p.8-11

④ 行幸田山遺跡〔不明〕

旧石器時代から近世に至る複合遺跡。VI層の遺構確認中にモモと思われるバラ科種子が出土した。遺構には関連しない。

- ・大塚昌彦 1987 「植物遺存体」、『行幸田山遺跡』、渋川市教委、群馬県企業局、日本道路公団、p.381

⑤ 黒井峯遺跡〔古墳時代〕

Hr-FP 下の集落として著名な遺跡である。集落内の旧地表面が良好に保存されているため、他の遺跡とはかなり異なる状況で種実の出土が認められる。

C-49号平地式建物では東壁南よりの土間に炭化した米が散乱しており、坏類の破片も同様に散っているところから棚上におかれたものとされる。また、北側の土座上西部に「小豆粒が二合程度落ちていた」とされる。

B-191粃殻捨て場（珪酸体捨て場）およびC-96粃殻捨て場は、白色の植物珪酸体が0.5cmから1cmの厚さで捨てられていたもので、植物珪酸体分析の結果粃殻であったことが判明している。植物珪酸体の同定は古環境研究所による。

B-91号竪穴式住居では東壁の中央近くでハトムギが70粒ほど出土した。なお、これについて調査者の石井克己氏から、再検討の結果ジュズダマの可能性が高いと思われるとのこと教示をいただいた。

C-147号平地式建物は桶と見られる木製容器や須恵器の瓶類が多く出土しているところから、液体に関する作業小屋と考えられる建物である。建物の中央近くから倒立状態で出土した無蓋高坏の内部に「白色の珪化した稲穂が一束存在した。」とされる。

・子持村教委 1990 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』、子持村文化財調査報告第11集

⑥ 行幸田西遺跡〔中世〕

「方形竪穴遺構」は、東西1.5m、南北1.4mのゆがんだ方形の平面形で、確認面から30cmほどの深さがある竪穴状のもので、「覆屋を有する穀物穴」と考えられている。床面から20cm以上の厚さで、総量43%（2斗4升）に及ぶ炭化状態のイネ、オオムギが出土している。米と麦の比率は8：2で米が多いとされる。出土した香炉から14世紀代とされる。

・田中義文（パリノ・サーヴェイ）1992 「渋川市行幸田西遺跡の種子サンプルについて」『市内遺跡Ⅴ 行幸田畑中遺跡、行幸田西遺跡、空沢遺跡第11次（Z地点、I地点）、有馬城、有馬前田、八木原前久保、行幸田中筋、石原田中、石原大中子』、渋川市教委、p.16

⑦ 六万遺跡〔縄文時代〕

縄文時代、古墳時代の集落遺跡。堀之内Ⅰ式期の袋状土坑の覆土上位から、少量の炭化材片とともに炭化したオニグルミ核破片が出土している。「覆土は人為堆積の様相を呈する」との注記がある。完形核はなく、いずれも2cm以下の細片で、総乾燥重量は324g、同定破片数は約200片とされる。同一層中に含まれた炭化材は、クリを主体とし、オニグルミ、ケヤキ、サクラ亜属がみられた。

・パリノ・サーヴェイ 1993 「六万遺跡から出土した炭化材と炭化種実遺体の種類」『六万遺跡発掘調査報告書』、赤城村教委、p.29-31

⑧ 芝山遺跡〔縄文時代〕

縄文時代、古代の集落遺跡。JP28号土坑は3.1m×2.03m、深さ0.47mの不整楕円形的大型土坑で、「底面より約10cmの高さで炭化したクルミが0.6リットルほど出土した。炭化したクルミの下から諸磯b式の土器が出ている。

・パリノ・サーヴェイ 1993 「芝山遺跡 炭化材、種子同定」、『芝山遺跡』北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 北橋遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 平成2・3年度県営富士見・北橋地区ほ場整

備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北橋村教委 1993、p.164-170

⑨ 半田中原・南原遺跡〔古代〕

縄文時代から古代にかけての複合遺跡。奈良時代の98号住居は多くの土器を出土した焼失住居である。本文中では「北壁中央東よりの一部に炭化米が出土している。これは垂木の上に横方向の稲藁が葺かれた状態であり、その藁束の中に稲穂が紛れていたと考えられる。」とするが、同定報告では出土したイネは炭化胚乳であって、胚が脱落していることが述べられている。数的表現は無いが図版では数十粒が見られる。

・パリノ・サーヴェイ 1994 「奈良時代焼失住居址より出土した炭化米について」、『半田中原、南原遺跡』、渋川市発掘調査報告書第41集、渋川市教委、p.741

⑩ 藤田获久保遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期から中期にかけての遺跡。土坑18基から炭質物が採取されている。うち2基からの資料は同定不能であったが、他の16基からの資料は全てオニグルミの核片であり、3基からはミズキ核片も出土した。

・パリノ・サーヴェイ 1994 「自然科学分析」、『群馬県小野上村 藤田获久保遺跡発掘調査報告書』、藤田获久保遺跡調査会、小野上村教委、p.107-108

⑪ 中筋遺跡〔古墳時代、古代〕

縄文時代から平安時代に至る複合遺跡で、特に Hr-FA の噴火による火砕流で埋没した集落として知られる。7次調査の7号平地式建物跡は東西3.68m、南北3.9m前後の方形の平地式建物で、Hr-FA の火砕流によって焼失、倒壊しており、炭化した建築部材や屋根材が残る。南壁沿いに炭化米が、北東部を中心に炭化粟が見いだされている。「ともに床面直上に濃い分布を有し、米は20cm上位まで、粟は40cm上位までのその包含が認められる。」「洗い出しによって得たそれぞれの量は、炭化米約3%、炭化粟約12%である。」とされる。

パリノ・サーヴェイによる同定報告があり、「炭化米についてはイネの胚乳およびモミ、小型の炭化種子についてはアワに同定された。」とある。量的な評価はなされていない。「アワとイネの一部がすでに脱穀された状態で、イネの一部が翌年の稲作に備えた種粃の状態ですべて貯蔵されていたことなどが想起される。」としている。

奈良時代の8次調査区1号住居（焼失住居）の床面からはモモ核片が出土している。

・パリノ・サーヴェイ 1999 「渋川市中筋遺跡（第7次調査）の自然科学分析調査」、『中筋遺跡 第7次発掘調査報告書』、渋川市発掘調査報告書34集、渋川市教委、p.40-57

・パリノ・サーヴェイ 1994 「1号竪穴から出土した種実の種類」、『市内遺跡Ⅶ 中筋遺跡第8、9次、行幸田畑中C遺跡、半田剣城遺跡C地点、川島岡貝戸、川崎山崎、石原清水田遺跡、石原大中子、行幸田畑中B遺跡、行幸田南原遺跡、有馬西田、有馬中井、八木原沖田、八木原大道添』、渋川市教委、p.91-92

⑫ 北町遺跡〔古墳時代〕

旧石器時代、縄文時代、古墳時代の複合遺跡。古墳時代前期の竪穴住居8棟から種実が出土している。B区H-23は大型の竪穴住居で、床からモモ核が出土している。C区H-1も大型の竪穴住居で、覆土下層からオニグルミが出土している。C区H-5は比較的小型の竪穴住居。覆土からモモが出土している。C区H-7住は南北に長い長方形住居で炉が2か所あ

り、中央からやや北よりの炉1からモモ核が出土している。鍛冶工房的な性格が想定されている。C区H-8は小型の堅穴住居で覆土下層からモモ核が出土している。C区H-12は比較的小型の堅穴住居。詳細な調査はされていないが覆土下層からモモ、覆土中位からユリ科の炭化根茎が出土している。C区H-17住もやや小型の堅穴住居で、覆土の上層からモモが出土している。E区H-27-20は焼失住居で、住居東部の床面から炭化米多数が出土している。

・パリノ・サーヴェイ 1996 「北町遺跡から出土した炭化材、種実遺体の同定」、『北町遺跡、田ノ保遺跡』、北橘村教委、p.947-355

⑬ 田ノ保遺跡 [縄文時代、古墳時代]

縄文時代遺物包含層と古墳時代水田が調査されている。種実資料としては堆積土を水洗選別したものと、個別取り上げ資料がある。「A区縄文泥流下」とされる資料はAs-Cよりも下位の泥流堆積物に覆われた流路覆土のうち、堀之内式期の土器片が出土する層からの水洗選別資料である。オニグルミ、ブナが検出されている。

「C区2号水路」とされる資料はHr-FA下の水路から採取された土壌のものらしい。3地点6サンプルからの水洗選別資料で、クワ属、ブドウ科、クサギ、タラノキ、ニワトコ、ガズミ属などがある。

「C区2号水路泥流下」とされる資料はHr-AAの噴火に伴うとされる泥流以下の水路覆土のもので、同定されたオニグルミ及びイネ類は個別取り上げ資料らしい。他は土壌からの水洗選別試料で、オニグルミ、コナラ垂属、コナラ属、クリ、アブラチャン、モモ、トチノキ、エゴノキ属、イネが検出されている。

・パリノ・サーヴェイ 1996 「田ノ保遺跡の古環境」、『北町遺跡、田ノ保遺跡』、北橘村教委、p.356-400

⑭ 南雲寺後遺跡 [古代]

1号堅穴状遺構は竈を持たない遺構で、炭化したイノシシ、ニホンジカの獣骨とともに、炭化したコナラ属子葉、トチノキ子葉片が出土している。平安時代のもものとされる。「多量に出土した炭化種実遺体のほとんど」がコナラ属の子葉で、トチノキ子葉片は数個だが、「中には種皮がついている状態で検出されたものも見られた。」「皮が剥がれている個体が大部分であったことから、貯蔵していたもの」が「炭化したと考えられる」とされる。

・パリノ・サーヴェイ 1997 「南雲寺後遺跡平安時代住居より出土した食物残渣の種類について」、『南雲寺後遺跡 津久田桜ノ木遺跡』、赤城村教委、p.20-31

⑮ 樽舟戸遺跡 [古墳時代]

古墳時代前期の祭祀跡とされる遺構から出土した土器内の土壌4点及び同期の住居床面土を古環境研究所に委託して水洗選別しているが、種実は検出されなかった。

・古環境研究所 1999 「樽舟戸遺跡における種実同定」、『樽舟戸遺跡 赤城山西麓における古墳時代前期集落跡の調査』、赤城村教委、p.95

⑯ 道訓前遺跡 [縄文時代]

縄文時代中期の大規模集落遺跡。縄文時代中期(阿玉台III)のJ-12堅穴住居床面、5KグリッドIII層ビット内、6KグリッドI層からそれぞれオニグルミが出土している。また、4EグリッドII層からも「堅果類の子葉」またはオニグルミ核とされるものが出土している。同定はパリノ・サーヴェイ

による。

・パリノ・サーヴェイ 2001 「道訓前遺跡 放射性炭素年代測定と炭化材、種実遺体同定」、『道訓前遺跡 豊富な遺物を伴う縄文時代中期中葉の大型環状集落』、北橘村教委、p.451-454

⑰ 箱田遺跡群 [時期?]

JP-307土坑の覆土下層から、オニグルミの核が出土している。

・パリノ・サーヴェイ 2001 「道訓前遺跡 放射性炭素年代測定と炭化材、種実遺体同定」、『道訓前遺跡 豊富な遺物を伴う縄文時代中期中葉の大型環状集落』、北橘村教委、p.451-454

⑱ 猫持久保遺跡 [古墳時代]

Hr-FP下の祭祀関連遺跡。土器内の土壌を古環境研究所に委託して、0.25mmの篩を用いて水洗選別しているが種実は検出されていない。

・古環境研究所 2004 「種実同定」、『宮田諏訪原遺跡III 猫持久保遺跡 榛名山噴火によって埋もれた古墳時代祭祀遺跡の調査』、赤城村教委、p.52

⑲ 見立溜井II遺跡 [弥生時代]

Na88見立溜井遺跡に隣接する。方形周溝墓方台部の焼土を、古環境研究所に委託して、0.25mmの篩を用いて水洗選別している。種実は検出されていない。

・古環境研究所 2005 「見立溜井II遺跡における種実同定」、『見立溜井II遺跡』古墳時代方形周溝墓の調査 横野地区遺跡群VI、赤城村教委、p.88

⑳ 三原田諏訪上遺跡 [時期不明]

資料採取地点等の詳細は不明。堆積物を、古環境研究所に委託して、0.25mmの篩で水洗選別している。種実は検出されていない。

・古環境研究所 2005 「三原田諏訪上遺跡における種実同定」、『横野地区遺跡群VI 三原田諏訪上遺跡IV [群馬県指定史跡：三原田諏訪上遺跡瓦塔設置仏教遺構]—奈良、平安時代、中世編—』、赤城村教委、p.96

㉑ 宮田諏訪原遺跡 [古墳時代]

Hr-FP下の畠畦、祭祀址の土器内などから採取した土壌を古環境研究所に委託して、0.25mmの篩を用いて水洗選別している。種実は検出されていない。

・古環境研究所 2005 「宮田諏訪原遺跡における種実同定」、『宮田諏訪原遺跡I、II 榛名山噴火軽石、火山灰に埋没した古墳時代祭祀遺跡』、赤城村教委、p.212

(9) 藤岡市：3遺跡

① 東平井中道B遺跡 [中世]

中世かと思われるI-1号井戸の下層覆土の土壌を水洗して、種実を抽出している。スモモ、コブシ、桃、麦、小麦、稲、豆類が出土した。

・藤岡市教委、山武考古学研究所 1998 『F28a東平井中道B遺跡、F28b薬師遺跡』

② 薬師遺跡 [中世]

中世のI-1号井戸から、柿経片多数をはじめとする遺物とともに桃、スモモ、センダン、アオツヅラフジが出土している。

・藤岡市教委、山武考古学研究所 1998 『F28a東平井中道B遺跡、F28b薬師遺跡』

③ 谷地C遺跡 [縄文時代]

縄文時代後期の「アク抜き土坑」からオニグルミ、コナラ

属、ブナ科、ヤマグワ、カジノキ属、マタタビ属、カエデ属、トチノキ、ニワトコ、カヤツリグサ科、カラムシ属、タデ属、アカザ科、キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属、カタバミ属、ヤブジラミ、ナス科などの種実が出土している。同定はパリノ・サーヴェイによる。

なお、この土坑については「断面形状が袋状を呈し、本遺跡において確認した土坑の中では唯一の形態である。」とある。網代状の編み物片も出土している。

- ・パリノ・サーヴェイ 2006 「谷地C遺跡の自然科学分析」、『小野地区水田址遺跡道下地点、C42 谷地C遺跡』、国立藤岡総合病院外来センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、藤岡市教委、p.315-329

(10) 富岡市：1遺跡

① 小塚遺跡〔弥生時代〕

縄文時代前期から中世に至る複合遺跡。弥生時代中期後半の竪穴及び土坑から多量の粃が出土している。

1号竪穴は最大幅1.8m、確認長3.7mの細長い平面形で深さは10cmほどしかない。底面は平坦で全体的に焼けて赤変している。西端近くにこの遺構を挟むように浅いピット2基がある。覆土中に「炭化した粃が多量に散っており、床面にも多数密着していた。」とされる。

また、長辺2m、短辺1mほどの隅丸長方形の大型の土坑が8基あり、これらからも炭化米が出土している。9、21、23号土坑では覆土中から底面にかけて炭化米が出土し、特に21号土坑では塊状を呈する部分があったとされる。稲粃の貯蔵のための穴倉であったとされている。

- ・富岡市教委 1987 『小塚、六反田、久保田遺跡発掘調査報告書』
- ・井上 太 1999 「小塚遺跡」、『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社

(11) 安中市：10遺跡

① 北東、堤下遺跡〔古墳時代〕

縄文時代と古墳時代から奈良時代にかけての集落遺跡。古墳時代のH-2号住2区3層からコナラ属コナラ亜属の細片が少数出土している。

- ・金原正子(古環境研究所) 1994 「炭化種実の分析」、『中野谷地区遺跡群 自然科学編』、安中市教委、p.71-78

② 天神原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代晩期前半期の「天神原式期」の標式遺跡。縄文時代後期から晩期にかけての集落、環状列石のほか、古墳時代の集落、奈良時代の牧に関連する遺構なども見つかっている。縄文時代後期のS-20配石墓、5区、2層からオニグルミ核の細片が出土している。

- ・金原正子(古環境研究所) 1994 「炭化種実の分析」、『中野谷地区遺跡群 自然科学編』、安中市教委、p.71-78

③ 中原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期前葉、古墳時代前期を中心とする集落遺跡。奈良時代の牧に関連する遺構なども見つかっている。縄文時代前期のJ-3号住、6区、中層からオニグルミ核の細片が出土している。

- ・金原正子(古環境研究所) 1994 「炭化種実の分析」、『中野谷地区遺跡群 自然科学編』、安中市教委、p.71-78

④ 細田遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期、古墳時代の集落および奈良時代の牧に関連する遺構が見つかった。縄文時代のJ-5号住、3区、3層からオニグルミが出土している。また、D-3号土坑からはオニ

グルミ、クリ、エゴマが大量に出土しており、エゴマは塊状をなすものとされる。C14年代はBP5510±90年で、前期後半の遺構と推定されている。

- ・金原正子(古環境研究所) 1994 「炭化種実の分析」、『中野谷地区遺跡群 自然科学編』、安中市教委、p.71-78
- ・大工原豊 1999 「細田遺跡」、『群馬県遺跡大事典』上毛新聞社

⑤ 行田大道北遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期を中心とした集落遺跡。クッキー状の「加工食品」炭化物が多数出土したことで知られる。12号土坑は縄文前期(諸磯C)のもので、覆土下層から塊状の炭化種実が出土している。アブラナ属の数種類から成り立つと考えられ、食糧の一部であろうとされる。同定はパリノ・サーヴェイによる。

- ・日本道路公団、群馬県教委、松井田町遺跡調査会 1997 『松井田町内関越自動車道(上越線)関連遺跡 自然科学分析編』

⑥ 新堀東源ヶ原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代中期を中心とする集落遺跡。164号住居でオニグルミ、堅果(トチノキかクリ)、174号住居ではオニグルミ、91号住居の炉内からオニグルミ、包含層(DC-45)からもオニグルミが出土している。いずれも縄文時代の遺構である。同定はパリノ・サーヴェイによる。

- ・日本道路公団、群馬県教委、松井田町遺跡調査会 1997 『松井田町内関越自動車道(上越線)関連遺跡 自然科学分析編』

⑦ 五料野ヶ久保遺跡〔縄文時代〕

縄文時代の集落、配石墓が調査されている。縄文後期前半(堀之内II~加曾利B1)の14号住居からウメ、縄文後期前半(堀之内II~加曾利B1)の包含層からウメ、モモが出土しているが、混入と判断されている。同定はパリノ・サーヴェイによる。

- ・日本道路公団、群馬県教委、松井田町遺跡調査会 1997 『松井田町内関越自動車道(上越線)関連遺跡 自然科学分析編』

⑧ 大道南II遺跡〔縄文時代〕

縄文時代中期後半のG-39B、D81号土坑の覆土上位から、炭化したオニグルミ核の細片が多数出土している。

- ・古環境研究所 「天神林遺跡、大道南II遺跡、向原II遺跡における種実同定」「天神林遺跡、砂押III遺跡、大道南II遺跡、向原II遺跡」、p.377-378

⑨ 上明戸地区 安中市〔古墳時代か〕

Na13杭南トレンチでAs-C混土層以下の柱状3サンプル各200ccを0.25mmの篩を用いて水洗選別している。ウルシ属、ホタルイ属、スゲ属、カヤツリグサ科、コナギ、タデ属、オトギリソウ属、シソ属、シャジクモ属が出土している。ウルシ属、スゲ属をのぞいてAs-C混土中からの出土である。

- ・古環境研究所 2004 「上明戸地区における種実同定」、『天神林遺跡、砂押III遺跡、大道南II遺跡、向原II遺跡』、安中市教委、p.366-370

⑩ 砂押III遺跡〔縄文時代〕

縄文時代後期と見られる埋没谷底部の堆積土200ccを0.25mmの篩を用いて水洗選別したもの。オニグルミ、クリ、ヒメコウゾ、クワ属、マタタビ、ミズキなどが出土している。

- ・古環境研究所 2004 「砂押III遺跡(中島地区)における種実同定」、『天神林遺跡、砂押III遺跡、大道南II遺跡、向原II遺跡』、安中市教委、p.338-341

(12) みどり市：2遺跡

① 瀬戸ヶ原遺跡（C区）〔縄文時代〕

縄文時代および平安時代の集落遺跡。縄文時代前期のJ-1号住居跡の覆土から炭化したクルミ核片とクリ子葉片が出土している。

・大間々町教委 1994 『瀬戸ヶ原遺跡（C区） 縄文時代前期および平安時代の住居跡調査』

② 西鹿田中島遺跡〔縄文時代〕

縄文時代草創期の土坑からカシワ、コナラが出土している。71号土坑は120×100×30cmの楕円形平底の土坑で、厚手の爪形文土器底部、石鏃、剝片とともに、底面からカシワの炭化子葉1点が出土している。75号土坑は底径140×140×深さ90cmの袋状土坑。厚手の爪形文土器片とともに、コナラ炭化子葉片が出土している。土坑底面のやや軟質化した土層からの出土である。同定は磯田喜義氏による。

・『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(1)』 笠懸町教委 2003

※磯田喜義 「西鹿田中島遺跡71号土坑、75号土坑出土堅果類の樹種同定」 p.231-232

(13) 多野郡吉井町：1遺跡

① 入野遺跡〔古墳時代〕

1958年に群馬大学が調査した古墳時代後期を中心とする集落遺跡。1973年に県指定史跡となっている。

古墳時代後期の竪穴住居17棟が調査され、3棟からモモ核が出土した。第5号住居跡では住居の西半から炭化材、鉄滓とともに、第9号住居跡では住居東部の床面から炭化した材や萱とともに出土したものである。

・吉井町教委 1962 『入野遺跡』

(14) 多野郡上野村：1遺跡

① 檜原遺跡〔縄文時代〕

酒詰仲男による神流川流域遺跡の踏査報告中に記された遺跡である。黒浜、諸磯、堀之内式の遺物があり、住居跡5棟があったらしい。遺跡総括表中の檜原遺跡部分に「胡桃」とあるのだが、本文の遺跡紹介中には触れられておらず、詳細はわからない。

・酒詰仲男 1954 「群馬県神流川流域の遺跡」、『人文學』、第14号 同志社大学人文学会

(15) 多野郡神流町：1遺跡

① 保美濃山西遺跡〔縄文時代〕

1967年に発掘調査された縄文時代の遺跡。縄文時代晩期の住居2棟からクリ、クルミが出土している。ともに方形の竪穴住居で石囲い炉を持つ。第1号住居址から炭化したクルミ核片、第2号住居址から炭化した栗の種皮片が出土している。

・下久保ダム水没地埋蔵文化財調査委員会 1968 『坂原遺跡 保美濃山西遺跡』、下久保ダム水没地埋蔵文化財発掘調査報告書

(16) 甘楽郡甘楽町：1遺跡

① 駒形遺跡〔時期不明〕

1号井戸の最下層覆土400ccを0.5mmメッシュの篩を用いて水洗選別している。カヤツリグサ科が出土した。時期はわからない。

・バリノ・サーヴェイ 2004 「駒形遺跡の自然科学分析」、『駒形遺跡』、甘楽町教委、p.44-57

(17) 吾妻郡中之条町：1遺跡

① 清水遺跡〔縄文時代〕

縄文時代の土坑かと思われる遺構から、多量の土器片や石

鏃、土製耳飾、石製垂飾などが出土し、これに混じって炭化したクリ、獣骨片などがあつたとされる。

・『群馬県史』資料編1 1988

(18) 吾妻郡東吾妻町：1遺跡

① 小泉宮戸遺跡〔古代〕

As-B'下とされる埋没谷から種実が採取されている。この谷からの出土遺物は8世紀前半代を中心とするが、羽釜、土釜も出土している。忌串かと考えられている加工痕を持つ板目材小片や、表裏を赤と黒の漆で塗り分けた容器片などの木製品とともに、桃93、胡桃71、栃7が出土している。

板目材に忌串としての性格を認めるとすればと言う限定付きで「祭祀の場に供された果実類ではないかと思われる。」とされている。また、「胡桃と栃は人為的にこじ開けた形跡が認められる。」とされているのだが、掲載されたオニグルミ核の集合写真には完形で食痕のあるものが目立つほか、上下ともに打撃痕跡のない半割品が多いように見える。

・吾妻町教委 2003 『小泉宮戸遺跡』吾妻町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 町内遺跡Ⅰ 平成13年度県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書

(19) 吾妻郡長野原町：3遺跡

① 向原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代、平安時代の集落遺跡。C区2号住居址は縄文時代後期（堀之内1式）の柄鏡形敷石住居である。上部が削平されているが、柄部と住居本体の接合部近くから炭化した堅果がまとまって出土している。写真で見ると、クリの炭化子葉、トチノキの種子らしいものがある。

・長野原町教委 1996 『向原遺跡』

② 暮坪遺跡〔縄文時代〕

縄文時代の集落遺跡。縄文時代前期前半（二ツ木式）の住居（SI01）の覆土上位に炭化材片（クリ、ケヤキ）を含む焼土層があり、この層中から20個前後相当と思われるクリの炭化子葉が出土した。同定はパレオ・ラボ新山雅広氏による。

・新山雅広 2001 「暮坪遺跡から出土した炭化種実」、『暮坪遺跡』、長野原町教委、p.26-27

③ 小林家屋敷跡〔近世〕

天明泥流下の屋敷内土坑の土壌を古環境研究所に委託して0.25mmの篩で水洗選別している。種実は検出されていない。

・古環境研究所 2005 「トイレ遺構分析」、『小林家屋敷跡』、長野原町教委、p.39-43

(20) 吾妻郡嬬恋村：1遺跡

① 鎌原遺跡（十日の窪）〔近世〕

天明三年の浅間山噴火により埋没した家屋から炭化した穀物が出土している。口絵には「粟、稗」とされる写真があるが、アワとオオムギのように見える。木製の箱の中に入っていたもののようである。なお、p.6では中央埋没家屋から多量の大麦が出土したとされ、出土品を列挙する中では「炭化した麦（大小）、粟多数」とあり、これが口絵写真に相当するもののようである。p.9には東側埋没家屋からも「炭化した麦（大小）」が出土したことが示される。また、p.62では「大麦、小麦、あわ、そば等々の炭化物」との表現がある。個別種実についての記載はない。嬬恋村歴史資料館に出土した穀類の一部が展示されている。

・児玉幸多編 1982 『天明3年（1783）浅間山大噴火による埋没村落（鎌原村）の発掘調査』昭和56年度科学研究費補助金（総合

研究A) 研究成果報告書、学習院大学

(21) 吾妻郡草津町：1遺跡

① 井堀遺跡〔古代〕

標高960mの高冷地にある遺跡。平安時代の竪穴住居1棟が調査されている。焼失住居と見られ、覆土中にイネ科植物起源の炭化物があって、「茎や葉の間に丸い種子状の炭化物が認められたが、栗様のものと認められた」とある。

・草津町教委 1974 『井堀遺跡発掘調査報告―草津白根山麓における高地性集落の考古学的検討―』

(22) 利根郡昭和村：1遺跡

① 中棚遺跡〔縄文時代〕

縄文時代早期から平安時代に至る複合遺跡。NJ-1号住居跡は縄文時代前期のもので、埋土中に焼土と混在して「炭化したドングリ、オニグルミ、ミズキ等の種子」が出土しているとされる。パリノ・サーヴェイによる炭化種子同定ではオニグルミ52、クリ178、ミズキ113、その他細片215(いずれも破片を含む数)とされている。クルミは殻片、クリは子葉片、ミズキは子実丸ごとが炭化したものらしい。

・パリノ・サーヴェイ 1985 「中棚遺跡試料 炭化材及び炭化種子同定報告」、『中棚遺跡―長井坂城跡―』、関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 KC-VI、昭和村教委、p.170-172

(23) 利根郡みなかみ町：3遺跡

① 東原遺跡〔縄文時代〕

縄文時代前期を中心に、早期から晩期にかけての遺物が認められるほか、9世紀後半代にも集落が営まれている。縄文時代の土坑のうち、平面形が円形で断面がフラスコ状または鍋底状の土坑をAタイプとされていて、この中から「栗、胡桃と思われる断片も検出されている。これらの炭化物については、今後の植物学的な鑑定が必要である」とされる。

・水上町教委 1986 『東原遺跡』

② 大友館址遺跡〔近世〕

旧石器時代から中、近世に至る複合遺跡。EP34は近世の墓で、「五穀袋残欠」が出土した。ヒエ類、イネ、イネ科、その他が出土している。

・記名なし 1986 「種子同定」、『三峰神社裏遺跡、大友館址遺跡』関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 KC-VIII 月夜野町教委、p.169

③ 矢瀬遺跡〔縄文時代〕

縄文時代後期から晩期の集落遺跡。石組みを伴う水場から種実類が出土している。本文記載と、パリノ・サーヴェイによる分析レポートに記載されたものの2者があり、それぞれ出土数が記されている。

本文記載では、トチノキ154(2/3個体以上85、1/2個体61、幼果8、「鬼皮と種子破片も多数あり」とされている。オニグルミ60(2/3個体以上15、1/2個体45)、クリ4、カヤ2、ケヤキ1、サンショウ1、ミズキ1、エゴノキ1がある。

パリノ・サーヴェイのレポートは水場内の堆積土から上層A、下層A、南Aの3資料を採取、水洗選別した結果についてのもので、母サンプルは200cc。0.5mmメッシュの篩を用いている。南Aからはオニグルミ2、クリ1、トチノキ5、ミズキ1が出土した。水場上層Aからはケヤキ1、サンショウ1、トチノキ39、エゴノキ1、水場下層Aは有機物が多いとされ、トチノキ5が出土している。オニグルミは核片、クリは果皮片、ケヤキは種子、サンショウ果実、トチノキは果皮

片、種皮片及び幼果、エゴノキ、ミズキは核片である。

・パリノ・サーヴェイ 2005 「2土壤資料、木材、遺物について」、『矢瀬遺跡』、群馬県利根郡月夜野町上組北部遺跡群II 上組北部土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、月夜野町教委、p.269-292

(24) 佐波郡玉村町：1遺跡

① 砂町遺跡〔古墳時代〕

古墳時代前期(4世紀後半)の溝からサンショウ種子、ブドウ属種子、スゲ属果実、タデ属果実、キカラスウリ種子、ウリ類種子、オニグルミ核、モモ核、ムクロジ堅果、アヤメ属種子が出土している。また、近世溝からモモ核が出土している。それぞれ現地での取り上げ資料である。同定は古環境研究所による。

・古環境研究所 2007 「種実同定」、『砂町遺跡(第1次～3次調査) 尾柄町III遺跡 中之坊遺跡』北部公園建設、クリーンセンター用地拡張、町道拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第79集、玉村町教委 p.136-137

(25) 邑楽郡板倉町：1遺跡

① 伊勢ノ木遺跡〔古墳時代〕

標高13mの低地にある、古墳時代から奈良時代にかけての集落遺跡。古墳時代の6、13、45、46号住居址からそれぞれ、炭化した桃の種が出土している。

・板倉町教委 1985 『伊勢ノ木、小保呂遺跡発掘調査報告書』

(26) 邑楽郡大泉町：1遺跡

① 専光寺付近遺跡〔古代〕

旧石器時代、縄文時代後期、古墳時代後期から平安時代にかけての大規模集落。奈良時代の土坑から「穀類の炭化米」、同じく奈良時代の131号住居から「炭化種子」が出土している。後者はモモあるいはウメのように見える。

・大泉町教委 1989 『専光寺付近遺跡昭和63年度』

4. 種実類調査集成：群馬埋文編 補遺・追加

(1) 前橋市：2遺跡

① 元総社寺田遺跡〔旧石器時代〕

縄文時代以後の出土種実については前集成に収めた。As-YP直下の前橋泥炭層で埋没樹木が認められ、この部分について5cm立方の土壌サンプル(125cc)を採取し、1mmメッシュの篩を用いて水洗選別している。また、モミ毬果等をグリッド別に採取している。特に、As-YP直下の泥炭層から、チョウセンゴウ種子、バラモミ節を含むトウヒ属、カラマツの球果が多数出土し、ツノハシバミ種子も多出した。同定はパリノ・サーヴェイによる。

・群馬埋文 1996 『元総社寺田遺跡III』第208集

② 萱野II遺跡〔縄文時代〕

縄文時代及び平安時代の集落を中心とする遺跡である。現場で個別に取り上げた資料及び、調査現場で縄文時代前期住居7、土坑14、古墳時代以後の土坑1、平安時代住居6、土坑2から採取した土壌の水洗選別及び種実同定を株式会社パレオ・ラボに委託した。

縄文時代ではオニグルミ、クリ、コナラ属、ミズキ、キハダ、エノキグサ、タデ属などが検出された。特にまとまった量を出土する遺構は認められない。古墳時代以後と思われる土坑からは炭化したイネが検出された。平安時代の遺構でも集中的な出土は見られないがイネが多出し、アワ、オオムギ、

コムギ、ヒエという穀類が見られるほか、タデ属、ヒユ属、ホタルイ属が検出された。同定はパレオ・ラボ新山雅広氏による。

・新山雅広（パレオ・ラボ） 2007 「萱野II遺跡から出土した炭化種実1-4」、「萱野II遺跡 縄文時代以後の調査」、群馬埋文第402集、p.300-304

(2) 太田市：1遺跡

① 東今泉鹿島遺跡〔古代〕

東山道駅路に近い位置にある平安時代を中心とする集落遺跡。平安時代の竪穴住居15棟、土坑3基について種実の抽出を行っている。

竪穴住居は基本的にカマド内の天井部焼土と床面焼土との間の土壌のみを採取した。一部は住居内の土坑等の覆土も採取している。採取した土壌は風乾後、コンテナバット内の水に融解して攪拌し、浮遊した炭質物を二枚重ねたガーゼによる網を用いてすくい上げた。この炭質物について、肉眼及び低倍率ルーペを用いて種実を抽出し同定者に送付した。

特に種実を多出する遺構はないが、総量でイネ141、コムギ34、ササゲ属10、ムギ類3、オニグルミ1、ブドウ属1、アワ1、マメ科1などが得られている。漆紙文書を出土した63号住居では、カマドからは種実の出土がなかったものの、カマド右手の壁面を挟り込んで掘られた土坑からイネ40、コムギ22、アワ1などが、床下土坑からはイネ11、コムギ8が出土している。同定は古環境研究所による。

・古環境研究所 2007 「群馬県、東今泉鹿島遺跡における炭化種実同定」、「東今泉鹿島遺跡：第一分冊 遺構、本文編」、群馬埋文第403集、p.470-472

(3) 渋川市：2遺跡

① 吹屋三角遺跡〔縄文時代〕

Ⅲ区東では縄文面の調査で種子が出土した。トチノキ、クルミ、クリが多いとされる。「Ⅲ区西（1号河道）第3面目」は縄文時代面で、「意図的に木材を組み合わせた木組み状遺構」が4基あり、1号木組み状遺構周辺からはトチノキ種子が多量に出土し、2～4号木組み状遺構でもトチノキ種子の出土が見られた。

別にパレオ・ラボ新山雅広氏による同定報告がある。Hr-FA下とされた資料はオニグルミ、ナラガシワ、コナラ亜属、クリ、トチノキ、ハクウンボク、ヒシであり、数的にはトチノキ種子片が大多数を占める。1号河道とされる資料は、オニグルミ、モモ、トチノキであり、モモ核が最も多い。この同定に供された種実資料は発掘現場で個別に採取されたもので、資料に付された記号はグリッド番号と思われるのだが、本文に示された発掘区中には当該グリッドが見あたらない。

この遺構については、「Ⅲ区西は水場―トチノキ種子等のアク抜き場であり、Ⅲ区東は包含層―捨て場としての位置付けが可能であろう。」とされている。Ⅲ区西は木組みを伴う水さらし場遺構としては群馬県内では初めての調査例である。縄文時代には存在しないモモの核が1号河道から出土しているが、おそらく上位層出土であろう。Ⅲ区東では覆土の上位層が古墳時代前半期に相当する可能性が示唆されている。一号河道のモモ核とともに、Hr-FA下の資料として同定されたトチノキ種子にもこの年代が当てられるべきかもしれない。

・新山雅広（パレオ・ラボ） 2007 「吹屋三角遺跡から出土した大型植物化石」、「吹屋三角遺跡」、群馬埋文第409集、p.121-123

② 中郷田尻遺跡〔古墳時代〕

分析報告は先行出版された吹屋三角遺跡の報告書に掲載されている。各サンプルは現場で直接採取されたものである。

Ⅲ区下のHr-FA上面にある「巨大周溝」からイネの炭化穎果が6サンプルで合計35,732粒（100粒重からの換算値）出土しており、稲穂がその場で燃えた、あるいは燃やしたものを投棄したものと考えられる。抽出資料のため、茎、葉の有無はわからない。本文の遺構記載では、幅1～1.5mの溝に囲まれた一辺7m弱の方形区画の「台座及び周辺」あるいは「北側平坦面と南側」から粃が出土したとされる。平面図では区画内にある555号土坑内に炭化米の集中出土が示されるが、この土坑については記載が見当たらない。その他、遺物集中、住居、Hr-FA下の落ち込みからモモ核、核片、スモモ核、ナツツバキ果実片、不明果実片が出土している。

・群馬埋文 2007 「中郷田尻遺跡」第412集

・新山雅広（パレオ・ラボ） 2007 「中郷田尻遺跡から出土した大型植物化石」、「吹屋三角遺跡」、群馬埋文第409集 p.149-151

(4) 吾妻郡東吾妻町：1遺跡

① 上郷岡原遺跡〔近世〕

Ⅲ区1面とされる天明泥流下の旧地表面、水田、畑、建物等から個別に取り上げた種実の同定を行っている。水田からはイネ穎のほか、イヌビエ穎などが検出され、モモ核やホオノキ種子も出土した。畑からはアサ種子が出土している。2号建物からはモモ、クリ、オニグルミが多く採取されており、カキノキの萼も出土している。

檜崎は食用として貯蔵したものか、食後の残滓とする。また、特に完形のモモ核が目立つ点について、晩生種のモモが貯蔵されていた可能性を指摘している。

ほかにアカマツの可能性があるとされる毬果、クヌギまたはアベマキ果実が出土している。同定はパレオ・ラボ新山雅広氏による。

・檜崎修一郎 2007 「自然科学分析まとめ」『上郷岡原遺跡(1)：第4分冊自然科学分析編』群馬埋文第410集、p.80-82

・新山雅広 2007 「種実同定分析」『上郷岡原遺跡(1)：第4分冊自然科学分析編』、群馬埋文第410集、p.29-40

5. 初歩的な分析と特徴的な出土事例

以下、前集成と今回の集成を併せて、群馬県内の種実出土遺跡について初歩的な分析を行い、特徴的な出土事例をまとめる。

(1) 旧石器時代

旧石器時代遺跡の種実調査は3例にとどまる。縄文時代以後の種実調査が食物、作物の追求に主眼を置くのに対し、この時代は自然環境復元の資料を得るため調査としての性格が強いのだが、前橋市元総社寺田遺跡ではチョウセンゴヨウ種子、ツノハシバミ種子などが出土している。直接的に人との関わりが示される資料ではないが、ともに美味かつ栄養価の高い種子である。

(2) 縄文時代

縄文時代の遺跡は調査例が比較的多く、草創期から晩期まで、時期的なバリエーションにも恵まれている。47遺跡で種実調査が行われ、土坑74、住居32など計129地点で種実が得られた。最も多くの地点で認められたのはクルミ（オニグルミ、ヒメグルミ）であり82地点に及ぶ。クリが18地点、トチノキ

が17地点、ブナ、ブナ科とされるものを含むいわゆるドングリが17地点から出土している。ほかに現在では積極的な利用価値を認めがたい様に思われるミズキ(クマノミズキを含む)が21地点から出土している。

129地点のうち、土坑から堅果類が出土する例が74地点と6割近くを占める。草創期から見られ、国指定史跡みどり市西鹿田中島遺跡ではコナラ、カシワが爪形文土器の集中部にある2基の土坑底面から出土している。この時代から堅果利用があったとする直接的な根拠とすることはためらわれるものの、貴重な資料である。

最も多くを占めるのが、炭化したオニグルミ核などの細片が土坑の覆土に含まれる例で、渋川市藤田萩久保遺跡や前橋市萱野II遺跡、また前集成で示した渋川市下箱田向山遺跡などに見られる。渋川市見立溜井遺跡では前期の袋状土坑から多量のカヤ、クルミ、クリが出土し、桐生市金竜台遺跡ではクリ、渋川市芝山遺跡JP28号土坑ではクルミが出土している。報告書未見のため本集成には含めていないが、嬬恋村歴史資料館には今井東平遺跡の土坑から出土した多量のトチノキ、クリが展示されている。これらは堅果類の貯蔵に関わる遺構であろう。中之条町清水遺跡の土坑は群馬県史の扉写真にも採用されているもので、ここでは多量の土器や石器類、土製耳飾り、石製垂飾とともに、炭化したクリや獣骨片が出土していて、上記の貯蔵例とは性格が異なるものと考えられる。それぞれ、堅果類の扱い方の違いを反映したものであろう。

堅穴住居に関わる種実調査は32例ある。前集成で紹介した今井見切塚遺跡11号住居ではクヌギ近似種炭化子葉がまとまって出土している。向原遺跡C区2号住居址でも炭化したクリ、トチノキが多く出土している。萱野II遺跡では水洗選別により種実を抽出しているが、オニグルミ、クリ、コナラ属、ミズキなどが検出されたにとどまる。

みなかみ町矢瀬遺跡、渋川市吹屋三角遺跡では、水さらし場遺構からトチノキ種子などが多数出土した。藤岡市谷地C遺跡は「ドングリ等のアク抜き土坑」とされるものがある。種実の構成を見ると、高崎市中里見中川遺跡4区2号土坑と近い性格を有するものと思われる。群馬県内では数少ない、種実利用の具体的な有り様を示す遺構である。

(3) 弥生時代

弥生時代はデータが少ない。15遺跡で調査が行われ、住居15、土坑11のほか、旧河道や溝、井戸、水田など計48地点で種実が得られている。

縄文時代に多く見られたオニグルミは19地点で認められているものの、イネが38地点と出土地点数の首位を占める。これらに次いでヒョウタン仲間を含むウリ類が18地点で出土しているが、これには日高遺跡、新保遺跡で旧河道内の多地点で調査を行っていることが寄与している。モモ、マメ科とされるものを含むマメ類が11地点で見られる。イネ以外の穀類はコムギ4、オオムギ2、ヒエ2、アワ1地点の出土にとどまる。

中期後半の富岡市小塚遺跡が時期的に最も遡る例で、4基の土坑からイネの穎果が出土している。渋川市分郷八崎遺跡では土器の中に入れられた状態でマメが発見され、沼田市町田小沢II遺跡の炭化米は土器中で調理されていたものと見られている。

高崎市日高遺跡では関越自動車道建設に伴う発掘調査以後も、高崎市教委によって遺跡の範囲確認や史跡整備に伴う発掘調査が続けられており、焼失住居の土壌を水洗選別するなどの良好な調査事例がある。また、本集成には含めていないが、環壕中から炭化状態にない穎稻が出土したことが報道されたことも記憶に新しい。

(4) 古墳時代

71遺跡で調査を行い、221地点で種実を検出している。地点数の多さは白井遺跡群、吹屋遺跡群をはじめ、テフラ下の旧地表面調査に際して多地点からサンプリングがなされていることを反映したものである。田畠を含む旧地表面の調査が80地点に及ぶ。ほかに住居63地点、溝や河道41地点などで調査が行われている。旧地表面調査においては浮遊選別、水洗選別による抽出が行われているため、他の時代と比べるとシロザ近似種、スゲ属やカヤツリグサ科など雑草種子が多く認められることになる。人の利用にかかるものとしては、モモ種子が75地点で首位となる。次いでイネが60地点、ヒョウタン仲間を含むウリ類が50地点、クルミが46地点となっている。マメ科、マメ類とされるものを含むマメは20地点、コムギが17地点で出土しているが、アワ3地点、オオムギ、ヒエ、ソバが各1地点と他の雑穀は少ない。

古墳時代前期の高崎市高崎情報団地遺跡3号掘立柱建物跡柱穴から炭化した稲穂が出土して、倉庫の可能性が考えられている。前橋市鶴谷遺跡群96号住居では2個体の壺中に多量のジャポニカ型の玄米に混じって若干のインディカ型玄米とヒエ種子が炭化状態で残されていた。

住居内や土坑から多量の炭化米が出土する事例も目を引く。前橋市泉沢谷津遺跡、太田市舞台D遺跡、伊勢崎市下触向井遺跡、太田市小角田前遺跡などがある。渋川市中筋遺跡7号平地式建物跡では南壁沿いにイネ、北東部を中心にアワが見いだされている。館林市八方(八形)遺跡の「特殊遺構」、渋川市中郷田尻遺跡の「巨大周溝」などを含めて、炭化米の大量出土遺構はこの時期の特徴であるかもしれない。

渋川市黒井峯遺跡では、Hr-FP下の平地式建物内の棚上にイネがあったことが示される。また、「珪化」状態で植物遺体が残されており、火熱を受けない場合に種実がどのような状態で遺物化するかについての重要な示唆を与えてくれる。一方、上記の炭化米の出土を思わせるような遺構は認められないようだ。

(5) 古代

奈良、平安時代は38遺跡で調査を行い、住居47、土坑12、溝10、井戸7など96地点で種実を検出している。イネが出土地点数の首位を占めて49、モモが40でこれに次ぐ。注目されるのはムギ類で、コムギ15地点、オオムギ12地点に加えてムギ類とされる8地点を加えて35地点で確認されている。ヒエ、アワ、キビなど雑穀も24地点で出土し、マメ類も14地点ある。

新田郡の正倉と目される太田市天良七堂遺跡や唐三彩の陶枕を出土して官衙的な遺跡とされる同市境ヶ谷戸遺跡で掘立柱建物の柱穴から炭化米が多量に出土している。前橋市市之関前田遺跡では土坑内の木櫃状炭化物内から炭化米、アワが左右に分かれて出土するという状況が見られた。また、渋川市南雲寺後遺跡では、堅穴状遺構内でコナラ属の炭化子葉が多量に見つかっていて、多野郡吉井町矢田遺跡などとともに、この時代にも堅果が利用されていたことが示される。

沼田市石墨遺跡沼田チェーンベース地点や前橋市萱野II遺跡、太田市東今泉鹿島遺跡では、比較的多くの堅穴住居を対象に水洗選別による種実抽出を行っており、イネ、ムギ類、雑穀などを得ている。これにより、地域ごと、時期ごとの出土種実構成の変化を描き出すことも可能になりつつある。

(6) 中世

中世は19遺跡で調査を行い、井戸22、溝6、土坑3など、計36地点で種実を検出している。

モモが18地点で首位を占め、オオムギ、コムギを含むムギ類が11地点、イネ8地点、ウリ類6地点がこれに続く。注意すべきものとして、渋川市の行幸田西遺跡の堅穴状遺構がある。ここでは床面から20cm以上の厚さに堆積した炭化状態の米や麦が出土している。また同市中村遺跡の地下式坑では炭化した稲穂が出土している。

(7) 近世以降

近世は14遺跡で調査された。旧地表面21地点、屋敷跡2地点などを含む天明泥流下の遺構や高崎城の堀など47地点で種実を得ている。モモ20地点、オニグルミ8地点、クリ6地点などがある。

天明泥流下の遺跡では、作物としての種実が直接認められた例が注目される。渋川市中村遺跡ではグイズ畑、吾妻郡東吾妻町上郷岡原遺跡では麻畑が広く認められた。上郷岡原遺跡の畑内にある円形平坦面からはアサ種子片も出土している。本稿の対象とはしなかったが、長野原町や吉岡町、伊勢崎市などで認められるサトイモ畑を含めて、これらは作物の特定できる畑遺構であり、他の時期を含めた畑遺構検討のモデルとなるべき存在である。

吾妻郡嬭恋村鎌原遺跡十日の窪の調査ではオオムギ、コムギ、アワが木製容器に入れられた状況で出土している。また、利根郡みなかみ町の大友館址遺跡では墓中から五穀袋に入れられた穀類が出土している。

6. 種実調査の課題

前稿で、種実調査に関する課題として、空白を埋める戦略的な調査が必要である旨を述べた。特に旧石器時代と弥生時代から古墳時代前期にかけての調査例が少ないことを念頭に置いたものであったが、今回の集成作業の中で感じた、いくつかの新たな「空白」を指摘して、今後の課題としたい。

一つは小型種子対象調査の「空白」である。

縄文時代の遺構を対象とした種実調査は、前述の通り少なくはない。そして既に安中市細田遺跡でエゴマが出土し、安中市行田大道北遺跡では「アブラナ属の数種類から成り立つと考えられる塊状炭化種実」が出土するなど、堅果類以外の小型種子が縄文人に利用されていたことを示す好例が見いだされている。行田大道北遺跡で出土した「クッキー状炭化物」とともに、縄文時代の「食」を考える上で非常に重要な資料である。しかし多くは発掘現場で目視しうる大型の堅果類を拾い上げるにとどまっていて、小型種子の抽出例はごく少な

いのが実情である。最近ではマメ類を含めて、縄文時代の植物栽培を示唆する事例が各地で報告されている。この課題解決のためにも、群馬県での小型種子の検出（実物であれ圧痕であれ）が求められていると考える。

弥生時代、古墳時代でも、アワやヒエ、キビなど小径の雑穀は多くない。前稿ではこれを抽出時の篩の粗さに起因するものである可能性を考えていた。しかし、今回の集成結果を見るとイネとさほど変わらない大きさのオオムギやコムギの出土数が小型の雑穀の出土例数と大差ないのである。イネ以外の穀物が弥生、古墳時代に占めていた位置をさほど高くは見積もれないのではないだろうか。この問題の解決には篩の粗密を揃えた調査例の積み重ねが必要である。

一方で、古代ではイネは相変わらず多出しているのだがムギ類やマメ、雑穀が弥生時代、古墳時代とは比較にならないほど多く見られるようになる。一遺跡内である程度まとまった数の住居について水洗選別を行ったケースでは、ほぼ確実にイネ以外の穀類やマメが得られるようになるのである。

ここで問題となるのが、もう一つの埋めるべき「空白」、現在でも水稻耕作に不適とされる群馬県北部の地域における種実調査の「空白」である。

吾妻郡、利根郡、多野郡の山間地域では、弥生時代、古墳時代には遺跡が無く、平安時代に至って出現する集落がある。こうした集落については、「第二次新開集落」の一部、あるいは「山棲み集落」として考えてきた³⁾。吾妻郡草津町井堀遺跡は標高960mの高地にあって、周辺に水田となるべき耕地がない。山棲み集落とした遺跡であって、ここでは「粟様」品が出土したことが報告されている。また、近世の例ではあるが、嬭恋村鎌原遺跡からはイネの出土は報告されていない。

水田のできない土地に新しい集落を開くに当たっての前提は、水田以外でのムギ類や小型雑穀栽培の一般化にあったのか、水田以外でのイネ栽培である陸稲にあったのか、それともイネを含めた穀類の流通にあったのだろうか。この地域の遺跡で種実調査は、問題解決に向けた重要な鍵となるものと思われる。

本稿は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団平成19年度職員自主研究助成金交付を受けた「種実出土遺跡の研究」の成果の一部である。

参考文献

- 1) 洞口正史 2007 「群馬県埋蔵文化財種実調査遺跡集成」『研究紀要25』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.139-154
- 2) 群馬県埋蔵文化財調査事業団種実類調査遺跡データベース
http://www.d1.dion.ne.jp/~orbit_gu/arch/maibun/sitelist.html
- 3) 能登 健・小島敦子・洞口正史 1985 「山棲み集落の出現とその背景」『信濃』37(4): 43-60

付表 遺跡別種出土遺構一覧
前橋市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	鶴谷遺跡群	96号住居	古墳	焼玄米, ヒエ	近藤 晃
2	九料遺跡	第56号住居址	古墳	クルミ	
3	寺田遺跡	大溝	古墳・古代	ヒョウタンの仲間, モモ, クルミ	
4	柳久保遺跡	第16地点B区	古代	モモ, クルミ	古環境研究所
5	中鶴谷遺跡	90号土坑	古代	ヒョウタン類の一種	山内 文
6	熊野谷遺跡	JD-6号土坑	縄文	トチ	
7	市之関前田遺跡		古代	イネ, アワ	
8	公田東遺跡	館跡橋部分	中世	サンショウ, モモ, スモモ, ウメ, ヒサカキ, オオムギ, ホタルイ属, タデ属, アカザ属, シソ科, ヒョウタン類, キク科	古環境研究所
9	総社閑泉明神北遺跡	W-13溝	古墳	トチノキか, クルミ	
		W-14溝	古墳	トチノキ	

高崎市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	観音塚古墳	石室内	古墳	モモ	吉川純子
2	天王前遺跡	II区No.4 断ち割りトレンチ30層	不明	エゴノキ, ムクノキ	
3	天神久保遺跡	凹地01の北側の集石中または1号住居	古代	モモ?	
4	下村北・砂内遺跡	1号井戸	中世	マツ, モモ, ヤブツバキ, エゴノキ属	バリノ・サーヴェイ
5	村西・増殿遺跡	8号井戸	中世	ウメ, モモ	バリノ・サーヴェイ
6	宿大類町村西遺跡	井戸No.1	中世	米, 豆	
7	高崎城坪ノ榊形及び三ノ丸遺跡	坪ノ榊形堀	近世	梅, クルミ	
8	萩原団地遺跡	FA 降下面	古墳	桃, 胡桃, その他	
9	高崎城三ノ丸遺跡	158-SE38	近世	胡桃	
		158-SE51	近世	松	
		185-SE21	近世	梅	
		185-SE 4	近世	胡桃	
		二ノ丸堀北	近世	梅, 栗	
		二ノ丸堀南	近世	桃	
10	浜川芦田貝戸遺跡	5区大畦畔9東の耕作土下位	古墳	オモダカないしオモダカ科, ウキヤガラ, ホタルイ, コナギ, イボクサ, イバラモ属, ナデシコ科, シソ属, カヤツリグサ科, タデ属	古環境研究所
		6区大畦畔1	古墳	コムギとイネ	古環境研究所
11	下中居条里遺跡	第2トレンチ3号井戸	古墳	アカザ属, アサ, イシミカワ, イネ, イネ科, ウリ類, エノコログサ属, オナモミ, カジノキ, カヤツリグサ属, キク科, キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属, サンショウ, シソ属, タカサブロウ, タデ属, ナス科, ノブドウ, ヒユ属, ヒョウタン類, ブドウ科, ブドウ属, ミズアオイ属, メナモミ	古環境研究所
12	高崎情報団地遺跡	3号掘立柱建物跡	古墳	イネ	
13	乗附五百山遺跡	2号住居跡	古墳	モモ	
14	高崎情報団地II遺跡	深掘トレンチ	旧石器	マツ科, ハンノキ属, カヤツリグサ属, スゲ属, カヤツリグサ科	古環境研究所
15	日高遺跡	12区 SI50	弥生	ヤマモモ, オニグルミ, ブドウ属, イネ, オオムギ, コムギ, マメ科, ササゲ属, ノブドウ	古環境研究所
		SD200	古代	モモ	
16	北谷遺跡	19トレンチ北壁	古墳	ザクロソウ	古環境研究所
17	倉賀野駅北III(倉賀野下天神IV)遺跡	SK111		モモ	

桐生市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	千網谷遺跡	遺構不明	縄文	オニグルミ, 山グリ, ムクロジ, カシ(クスギ), ナラ	
2	金竜台遺跡		縄文	クリ	
3	三島台遺跡	F-31号土坑	縄文	クルミ	
		1-Hグリッド内の褐色土の落ち込み	縄文	トチ	

伊勢崎市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	下触向井遺跡	25号住居	古代	稲穂	
		4号住居	古墳	米	
2	下淵名・高田遺跡	5号井戸	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		11号井戸	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		18号井戸	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		23号井戸	中世	モモ, スモモ, メロン仲間	パレオ・ラボ 新山雅広
		24号井戸	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広

		29号井戸	中世	スモモ, センダン	パレオ・ラボ 新山雅広
		31号井戸	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		13号溝	現代	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		21号溝	中・近世	モモ, スモモ, センダン	パレオ・ラボ 新山雅広
		32号溝	中世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		7号トレンチ		モモ, オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
3	三和工業団地Ⅱ遺跡	縄文90号住居跡	縄文	カナムグラ	古環境研究所
4	三和工業団地Ⅲ遺跡	11号住居跡	古墳	イネ	古環境研究所

太田市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	五反田遺跡	J-12区Ⅱ号土坑	古墳	桃, 瓜, ツバキ科, その他	
2	大塚・間之原遺跡	3号住居	縄文	クルミ	
3	舞台D遺跡	第1号土坑(1983年に確認された土坑)	古墳	米	佐藤敏也
		第1号土坑	古墳	米	佐藤敏也
		第2号住居址	古墳	米	佐藤敏也
		第5号住居址	古墳	米	佐藤敏也
		第9号住居址	古墳	米	佐藤敏也
		第17号住居址	古墳	米	佐藤敏也
4	重殿遺跡	B-1号井戸		モモ	
		B-1号溝		モモ	
5	上新田遺跡			米	
6	高林梁場遺跡		古墳	モモ	
			古代	モモ	
7	下田遺跡	2号河道	縄文	クルミ, トチ	
8	中屋敷・中村田遺跡	I地区4号溝	古代	オニグルミ, ウメ, モモ	古環境研究所
		I地区6号溝	古代	モモ	古環境研究所
		Ⅱ地区11号住居跡竈	古代	イネ科, カヤツリグサ属, ミズアオイ, タデ属, ハコベ属, ナス科, イヌコウジュ属	古環境研究所
		Ⅲ地区12号溝		オニグルミ	古環境研究所
		V地区2号溝	中世	モモ	古環境研究所
		V地区6号井戸	中世	ヒョウタン	古環境研究所
		V地区P-18表採		ヒョウタン	古環境研究所
9	唐桶田遺跡	3号溝	古墳	モモ, クルミ, クリ	
		8号住居址	古墳	モモ	
10	天良七堂遺跡	1-1礎石建物	古代	イネ	
		1-2礎石建物	古代	イネ	
		6-1礎石建物	古代	イネ	
		北方建物	古代	イネ	
11	梅の木遺跡	1号河道		モモ, オニグルミ	
12	境ヶ谷戸遺跡	6号掘立柱建物	古代	イネ	

沼田市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	町田小沢Ⅱ遺跡	1号竪穴住居跡	弥生	米	

館林市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	八方(八形)遺跡	特殊遺構	古墳	米	

渋川市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	分郷八崎遺跡	住居跡	弥生	小豆? と中空の球形	
		14号住居	弥生	不明	バリノ・サーヴェイ
		219号土坑	縄文	ミズキ	バリノ・サーヴェイ
		378号土坑	縄文	ミズキ	バリノ・サーヴェイ
2	見立溜井遺跡	174(又は74)号土坑	縄文	カヤ, くるみ, くり	
		195号土坑	縄文	くるみ, くり	
3	中村遺跡	天明泥流下畠	近世	大豆	
		6号地下式土坑	中世	イネ	
		FA下水田(№373区画)	古墳	オモダカ属, イネ, イネ科の一種, ウキヤガラ, ホタルイ属, カヤツリグサ科, イボクサ, コナラ属, カナムグラ, タデ属, サンショウ属, トウダイグサ類似種, ツリフネソウ属, ブドウ科, イヌコウジュ属	バリノ・サーヴェイ
4	行幸田山遺跡	Q-29グリッド		バラ科(桃)	大塚昌彦

5	黒井峯遺跡	C-49号平地式建物	古墳	イネ, 小豆	
		B-191榎殻捨て場(珪酸体捨て場)	古墳	イネ	
		C-96榎殻捨て場	古墳	イネ	
		B-91号竪穴式住居	古墳	ハトムギあるいはジュズダマ	
		C-147号平地式建物	古墳	イネ	
6	行幸田西遺跡	方形竪穴遺構	中世	イネ, オオムギ	バリノ・サーヴェイ
7	六万遺跡	7号土坑	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
8	芝山遺跡	JP28号土坑	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
9	半田中原・南原遺跡	98号住居	古代	イネ	バリノ・サーヴェイ
10	藤田久保遺跡	149号土坑	縄文	オニグルミ	
		159号土坑	縄文	オニグルミ	
		163号土坑	縄文	オニグルミ	
		164号土坑	縄文	オニグルミ	
		167号土坑	縄文	不明	
		169号土坑	縄文	オニグルミ	
		181号土坑	縄文	オニグルミ	
		201号土坑	縄文	オニグルミ	
		203号土坑	縄文	オニグルミ	
		224号土坑	縄文	オニグルミ	
		272号土坑	縄文	オニグルミ	
		301号土坑	縄文	オニグルミ	
		303号土坑	縄文	オニグルミ	
		328号土坑	縄文	不明	
		351号土坑	縄文	オニグルミ	
		352号土坑	縄文	オニグルミ	
		362号土坑	縄文	オニグルミ	
		363号土坑	縄文	オニグルミ	
11	中筋遺跡	7号平地式建物跡	古墳	アワ, イネ	バリノ・サーヴェイ
		8次調査区1号住居	古代	モモ	バリノ・サーヴェイ
12	北町遺跡	B区H-23(貼床)	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-1(下層)	古墳	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-5	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-7住 一号炉	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-8(下層)	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-12(下層)	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
		C区H-12b区(中層)	古墳	ユリ科	バリノ・サーヴェイ
		C区H-17住(上層)	古墳	モモ	バリノ・サーヴェイ
13	田ノ保遺跡	E区H-27-20	古墳	イネ	バリノ・サーヴェイ
		A区縄文泥流下	縄文	オニグルミ, ブナ	バリノ・サーヴェイ
		C区2号水路	古墳	クマシデ属, クワ属, ブドウ科, クサギ, タラノキ, ニワトコ, ガマズミ属, スゲ属, ホタルイ属, カヤツリグサ科, イボクサ, カナムグラ, タデ属, ギンギン, ナデシコ科, タケニグサ, エノキグサ近似種, キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属, カタバミ属, セリ科, ナス科, キク科	バリノ・サーヴェイ
14	南雲寺後遺跡	C区2号水路泥流下	古墳	オニグルミ, コナラ亜属, コナラ属, クリ, アブラチャン, モモ, トチノキ, エゴノキ属, イネ	バリノ・サーヴェイ
		1号竪穴状遺構	古代	コナラ属, トチノキ	バリノ・サーヴェイ
16	道訓前遺跡	4 EグリッドII層		オニグルミまたは堅果類	バリノ・サーヴェイ
		5 KグリッドIII層ビット内		オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		6 KグリッドI層		オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		J-12竪穴住居 床面	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
17	箱田遺跡群	JP-307 土坑下層	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ

藤岡市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	東平井中道B遺跡	I-1号井戸	中世?	スモモ, コブシ, モモ, 麦, 小麦, 稲, 豆類	
2	薬師遺跡	I-1号井戸	中世	モモ, スモモ, センダン, アオツツラシ	
3	谷地C遺跡	P-17	縄文	オニグルミ, コナラ属, ブナ科, ヤマグワ, カジノキ属, マタタビ属, カエデ属, トチノキ, ニワトコ, カヤツリグサ科, カラムシ属, タデ属, アカザ科, キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属, カタバミ属, ヤブジラミ, ナス科	バリノ・サーヴェイ

富岡市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	小塚遺跡	1号竪穴	弥生	イネ	
		9号土坑	弥生	イネ	
		21号土坑	弥生	イネ	
		23号土坑	弥生	イネ	

安中市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	北東・堤下遺跡	H-2号住・2区・3層	古墳	コナラ属コナラ亜属	金原正子
2	天神原遺跡	S-20配石墓・5区・2層	縄文	オニグルミ	金原正子
3	中原遺跡	J-3号住・6区・中層	縄文	オニグルミ	金原正子
4	細田遺跡	D-3号土坑	縄文	オニグルミ, クリ, エゴマ	金原正子
		J-5号住・3区・3層	縄文	オニグルミ	金原正子
5	行田大道北遺跡	12号土坑	縄文	アブラナ属の数種類から成り立つと考えられる塊状種実	バリノ・サーヴェイ
6	新堀東源ヶ原遺跡	164号住居	縄文	オニグルミ, 堅果	バリノ・サーヴェイ
		174号住居	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		91号住居	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		DC-45	縄文	オニグルミ	バリノ・サーヴェイ
		14号住居	縄文	ウメ	バリノ・サーヴェイ
7	五料野ヶ久保遺跡	包含層	縄文	ウメ, モモ	バリノ・サーヴェイ
8	大道南II遺跡	G-39B・D81号土坑	縄文	オニグルミ	古環境研究所
9	上明戸地区遺跡	Na13杭南トレンチ	古墳	ウルシ属, ホタルイ属, スゲ属, カヤツリグサ科, コナギ, タデ属, オトギリソウ属, シソ属, シャジクモ属,	古環境研究所
10	砂押III遺跡	深掘第1トレンチ	縄文か	オニグルミ, クリ, ヒメコウゾ, クワ属, マタタビ, ミズキ, スゲ属, カヤツリグサ科, イグサ科, タデ属, ナデシコ科, カタバミ属	古環境研究所

みどり市

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	瀬戸ヶ原遺跡	C区J-1号住居跡	縄文	クルミ, クリ	
2	西鹿田中島遺跡	71号土坑	縄文	カシワ	磯田喜義
		75号土坑	縄文	コナラ	磯田喜義

多野郡吉井町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	入野遺跡	第5号住居跡	古墳	モモ	
		第6号住居跡	古墳	モモ	
		第9号住居跡	古墳	モモ	

多野郡上野村

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	檜原遺跡		縄文	クルミ	

多野郡神流町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	保美濃山西遺跡	第1号住居址	縄文	クルミ	
		第2号住居址	縄文	クリ	

甘楽郡甘楽町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	駒形遺跡	1号井戸		カヤツリグサ科	バリノ・サーヴェイ

吾妻郡中之条町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	清水遺跡		縄文	クリ	

吾妻郡東吾妻町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	小泉宮戸遺跡	埋没谷	古代	モモ, クルミ, トチ	

吾妻郡長野原町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	向原遺跡	C区2号住居址	縄文	堅果	
2	暮坪遺跡	SI01	縄文	クリ	パレオ・ラボ 新山雅広

吾妻郡嬬恋村

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	鎌原遺跡	十日の窪	近世	大麦, 小麦, あわ, そば	

吾妻郡草津町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	井堀遺跡	竪穴住居	古代	栗様のもの	

利根郡みなかみ町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	東原遺跡	Aタイプの土坑	縄文	クリ, クルミ	
2	大友館址遺跡	EP34	近世	ヒエ類, イネ, イネ科, その他	
3	矢瀬遺跡	底部泥炭層	縄文	トチノキ, オニグルミ, ケヤキ	

利根郡昭和村

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	中棚遺跡	NJ-1号住居跡	縄文	オニグルミ, クリ, ミズキ	バリノ・サーヴェイ

佐波郡玉村町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	砂町遺跡	7号溝	古墳・古代	サンショウ, ブドウ属, スゲ属, タデ属, キカラスウリ, ウリ類, オニグルミ, モモ, ムクロジ, アヤメ属	古環境研究所
		1号溝	近代以後	モモ	古環境研究所

邑楽郡板倉町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	伊勢ノ木遺跡	13号住居址	古墳	モモ	
		45号住居址	古墳	モモ	
		46号住居址	古墳	モモ	
		6号住居址	古墳	モモ	

邑楽郡大泉町

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	専光寺付近遺跡	131号住居	古代	モモ?	
		41号土坑	古代	米	

群馬埋文調査(前橋市)

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	元総社寺田遺跡	As-YP直下前橋泥炭層内埋没樹木	旧石器	トウヒ属, バラモミ節, チョウセンゴヨウ, ハンノキ属, サクラ属, カヤツリグサ科, カラマツ, ツノハシバミ, ブドウ属, ミズキ	バリノ・サーヴェイ
2	萱野II遺跡	1号住居	縄文	クリ, オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		2号住居	縄文	クリ, コナラ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		3号住居	縄文	エノキグサ	パレオ・ラボ 新山雅広
		9号住居	縄文	オニグルミ, タデ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		10号住居	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		15号住居	古代	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		16号住居	古代	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		17号住居	古代	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		18号住居	古代	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		19号住居	古代	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		21号住居	古代	イネ, ヒユ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		24号住居	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		25号住居	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		1号埋設土器	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		2号埋設土器	縄文	オニグルミ, エノキグサ	パレオ・ラボ 新山雅広
		遺物集中地点	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		5号土坑	古墳以後	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		17号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ, エノキグサ, キハダ	パレオ・ラボ 新山雅広
		34号土坑	縄文	オニグルミ, キハダ	パレオ・ラボ 新山雅広
		63号土坑	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		78号土坑	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		81号土坑	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		84号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ, キハダ	パレオ・ラボ 新山雅広
		98号土坑	縄文	オニグルミ, キハダ, タデ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		104号土坑	古代	イネ, コムギ, オオムギ, ムギ類, ヒエ, アワ, ホタルイ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		105号土坑	古代	イネ, コムギ, タデ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		111号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		114号土坑	縄文	タデ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		115号土坑	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		116号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		117号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		118号土坑	縄文	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		123号土坑	縄文	オニグルミ, ミズキ	パレオ・ラボ 新山雅広

群馬埋文調査(太田市)

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	東今泉鹿島遺跡	26号住居	古代	イネ, ササゲ属	古環境研究所

	29号住居	古代	イネ, ムギ類, イネ科	古環境研究所
	48号住居	古代	オニグルミ, ムギ類	古環境研究所
	49号住居	古代	ブドウ属, イネ, ササゲ属, ノブドウ	古環境研究所
	52号住居	古代	イネ	古環境研究所
	53号住居	古代	イネ, ササゲ属	古環境研究所
	54号住居	古代	イネ	古環境研究所
	55号住居	古代	イネ?	古環境研究所
	59号住居	古代	イネ	古環境研究所
	63号住居	古代	イネ, アワ, コムギ, イネ科, カヤツリグサ科	古環境研究所
	65号住居	古代	コムギ	古環境研究所
	76号土坑	古代	イネ, コムギ	古環境研究所
	78号土坑	古代	イネ, ササゲ属	古環境研究所
	103号土坑	古代	イネ	古環境研究所

群馬埋文調査(渋川市)

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	吹屋三角遺跡	KS-15Hr-FA 下黒	古墳	オニグルミ, ナラガシワ, コナラ属コナラ亜属, クリ, トチノキ, ハクウンボク, ヒシ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		KT-14Hr-FA 下黒	古墳	トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		KU-14 Hr-FA 下黒	古墳	トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		1号河道	古墳	オニグルミ, モモ, トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区東縄文面	縄文	トチノキ, クルミ, クリ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区西(1号河道)第3 面目1号木組み遺構	縄文	トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区西(1号河道)第3 面目2号木組み遺構	縄文	トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区西(1号河道)第3 面目3号木組み遺構	縄文	トチノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
2	中郷田尻遺跡	Ⅲ区巨大周溝	古墳	イネ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区6号遺物集中	古墳	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区42号住居	古墳	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区4号住居	古墳	不明	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区5号住居	古墳	スモモ, モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区12号住居	古墳	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区29号住居	古墳	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区2号落ち込みHr- FA 中	古墳	ナツツバキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅳ区 NA-8	古墳	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広

群馬埋文調査(東吾妻町)

	遺 跡 名	遺 構 名	時 代	種 実 名	同定者
1	上郷岡原遺跡	Ⅲ区(38区)1面表採	近世	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(38区)1面水田ト レンチA覆土	近世	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面6号水田	近世	イヌビエ, ミゾソバ, ヤナギタデ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面5号水田	近世	イネ, イヌビエ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面3号水田	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面2号水田	近世	ホオノキ, イヌビエ, ヤナギタデ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(38区)V-24	近世	マツ属複雑管束亜属毬果, スミレ属	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(38区)Y-24	近世	マツ属複雑管束亜属毬果	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面10号畑5号円 形平坦面	近世	アサ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(39区)10号トレン チ覆土	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(48区)Y-15	近世	クリ, モモ,	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(48区)Y-16	近世	マツ属複雑管束亜属, オニグルミ, クリ, モモ,	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区1面2号建物	近世	モモ, オニグルミ, クリ, カキノキ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)2面1号石 組遺構	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区2面232号土坑	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)A-15	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)B-13	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)C-2	近世	オニグルミ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)C-13	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広
		Ⅲ区(49区)O-2	近世	モモ	パレオ・ラボ 新山雅広